しんきん国内株式インデックス(投資一任用)

追加型投信/国内/株式/インデックス型

投資信託説明書 (請求目論見書)

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

本文書は、金融商品取引法第 13 条の規定に基づき作成され、投資者の請求により交付される目論見書(請求目論見書)です。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

- 1. この目論見書により行う「しんきん国内株式インデックス(投資一任用)」の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第5条の規定により有価証券届出書を2024年2月16日に関東財務局長に提出しており、その届出の効力は2024年2月17日に生じています。
- 2. 本文書は、金融商品取引法第13条第2項第2号に定める事項に関する内容を記載した目論見書(請求目論見書)です。
- 3. 「しんきん国内株式インデックス(投資一任用)」の基準価額は、同ファンドに組み入れられている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

発 行 者 名	しんきんアセットマネジメント投信株式会社
代表者の役職氏名	代表取締役社長 花岡 隆司
本店の所在の場所	東京都中央区京橋3丁目8番1号
縦覧に供する場所	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

(1) 【ファンドの名称】

しんきん国内株式インデックス(投資一任用)(以下「当ファンド」といいます。)

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

- ① 追加型証券投資信託(契約型)の受益権です。(以下「受益権」といいます。)
- ② 委託会社からの依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律(以下「振替法」といいます。)の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関(振替法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。委託会社であるしんきんアセットマネジメント投信株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3)【発行(売出)価額の総額】

5,000億円を上限とします。

(4)【発行(売出)価格】

取得申込受付日の基準価額とします。

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます。(ただし、便宜上1万口当たりに換算した基準価額で表示することがあります。)

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または下記の照会先に問い合わせることにより知ることができるほか、原則として日本経済新聞朝刊に掲載されます。また、委託会社のホームページで最新の基準価額をご覧になることもできます。

<照会先>

しんきんアセットマネジメント投信株式会社(委託会社) <コールセンター>0120-781812 携帯電話からは03-5524-8181(受付時間:営業日の9:00~17:00) <ホームページ>https://www.skam.co.jp

(5)【申込手数料】

申込手数料はありません。

(6)【申込単位】

販売会社が定める単位

(7)【申込期間】

2024年2月17日から2024年8月16日まで

(申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。)

(8)【申込取扱場所】

当ファンドのお申込みに係る取扱い等は販売会社が行っています。

※販売会社は、以下の方法でご確認ください。

委託会社への照会

ホームページ https://www.skam.co.jp

コールセンター 0120-781812 (携帯電話からは03-5524-8181)

(受付時間:営業日の9:00から17:00まで)

(9)【払込期日】

- ・取得申込者は、販売会社が定める期日までに、取得申込代金を販売会社において支払うものとします。
- ・販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行われる日に、委託会社の口座に払い込みます。委託会社は、同日、各取得申込受付日に係る発行価額の総額を、受託会社の当ファンドに係る口座に払い込みます。

(10)【払込取扱場所】

取得申込金額は、申し込みされた販売会社の営業所等で支払うものとします。

(11) 【振替機関に関する事項】

振替機関は下記のとおりです。

株式会社 証券保管振替機構

(12) 【その他】

① 当ファンドは、投資一任口座にかかる契約(同種の権利義務関係を規定する契約を含む)に 基づいて、投資一任口座の資金を運用するためのファンドです。

当ファンドの受益権の取得申込者は、販売会社に投資一任口座を開設した者等に限るものとします。

- ② 当ファンドの取得申込みは、販売会社の営業時間内において販売会社所定の方法でお申し込みください。
- ③ 各営業日の午後3時までに受け付けた取得および換金の申込み(当該申込みに係る販売会社 所定の事務手続きが完了したもの)を当日の受付分として取り扱います。この時刻を過ぎて行わ れる申込みは、翌営業日以降の取扱いとなります。
- ④ 日本以外の地域における発行はありません。
- ⑤ 振替受益権について
 - ・ファンドの受益権は、振替法の規定の適用を受け、上記「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則に従って取り扱われるものとします。
 - ・ファンドの分配金、償還金、換金代金は、振替法および上記「(11) 振替機関に関する事項」

に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

- ⑥ 投資信託振替制度について
 - ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。
 - ・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

- 1【ファンドの性格】
- (1)【ファンドの目的及び基本的性格】
 - ① ファンドの目的

日経平均株価(以下「日経225」といいます。)に連動する投資成果を目指して運用を行います。

② ファンドの基本的性格 当ファンドは、以下の「商品分類」および「属性区分」に該当します。

1) 商品分類表

T / 10100 / 1000			
単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産(収益の源泉)	補足分類
単位型投信	国内	株 式 債 券 不動産投信	インデックス型
追加型投信	内外	その他資産 () 資産複合	特殊型

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

2) 属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	対象インデックス
探資対象資産 株式 一般 大型株 中小型株 債券 一公債 社債 その他債券 クレジット属性 (不動産投信 その他資産 (投資信託証券(株式)) 資産複合 ()	(乗列度 年1回 年2回 年4回 年6回 (隔月) 年12回 (毎月) 日々 その他	投資 が ロー本 北欧アセ中フ 近東 ア・マース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	投資	対象インアックス 日経225 TOPIX その他 ()
資産配分固定型 資産配分変更型	()			

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

<商品分類の定義>

- ○「追加型投信」…一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ従来の信託財産と ともに運用されるファンド
- ○「国 内」…目論見書または投資信託約款(以下、「目論見書等」といいます。)において、組入 資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ○「株 式」…目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの
- ○「インデックス型」…目論見書等において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載がある もの

<属性区分の定義>

- ○「その他資産(投資信託証券(株式))」…目論見書等において、投資信託証券(マザーファンド) を通じて主として株式に投資する旨の記載があるもの
- ○「年1回」…目論見書等において、年1回決算する旨の記載があるもの
- ○「日本」…目論見書等において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ○「ファミリーファンド」…目論見書等において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。)を投資対象として投資する旨の記載があるもの
- ○「日経225」…目論見書等において、日経225に連動する運用成果を目指す旨の記載があるもの

※当ファンドが属さない商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会ホームページ(https://www.toushin.or.jp)をご参照ください。

日経平均株価 (日経 225) の動きに連動する運用を目指すファンドです。

例えば、日経平均株価(日経225)が5%上昇した場合には、基準価額がおおむね5%上昇し、日経平均株価(日経225)が5%下落した場合には、基準価額がおおむね5%下落するような運用成果を目指します。

※当ファンドは日経平均株価(日経225)に連動するように運用指図が行われますが、必ずしも完全に連動する 運用成果を保証するものではありません。

特色1 日経平均株価(日経225)という知名度の高い指標に連動する ことを目指すため、値動きが分かりやすいファンドです。

日経平均株価(日経225)は、日本の株式市場の値動きを表す代表的な指標として、 テレビや新聞など身の回りのさまざまな媒体で情報が提供されています。そのため、 ファンドの値動きを比較的容易に理解することができます。

特色2 「しんきん日経平均マザーファンド」 をマザーファンドとする ファミリーファンド方式で運用を行います。

■ 日経平均株価(日経225)の特徴

指数概要

指数名称	日経平均株価 (略称:日経平均、日経225)			
構成銘柄数	225銘柄**			
対象銘柄	東京証券取引所上場株式のうち代表的な銘柄			
算出開始日	1950年9月7日			
定期見直し	定期見直し 毎年4月と10月に構成銘柄の定期見直しを実施			

出所: (株) 日本経済新聞社の資料等により、しんきんアセットマネジメント投信(株)作成 ※通常は225銘柄が採用されていますが、銘柄入替時などには225銘柄とならない場合があります。

※市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

■ 投資戦略

- ●主としてわが国の金融商品取引所に上場している株式に投資し、日経平均株価 (日経225)の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- ●株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。

■ 投資プロセス

①経済環境分析・ 市場分析

- ・経済動向など、株式 市場を取り巻く環境を 多角的に分析します。 ・経済動向などの分析
- ・経済動向などの分析 を踏まえて、株式市場 の方向性について予想 を行います。

②個別銘柄分析・ 流動性・信用リスク のチェック

日経平均株価(日経 225)採用銘柄の個別 銘柄の財務内容等を チェックします。

③組入銘柄の決定

信用リスクが高いと判断 された銘柄を除き、 等株数投資を基本に 株価指数先物取引等を 一部利用し、分散投資 をします。

④投資後の リスク管理

日経平均株価(日経 225)の動きと当ファンド の基準価額の値動き のかい離およびその 要因等を管理・分析し ます。



※市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

■ ベンチマークについて

しんきん国内株式インデックス (投資一任用) は、日経平均株価 (日経225) をベンチマークとし、これに連動する運用を目指します。 (ベンチマークとは、投資銘柄の決定などにあたって目安となる指標のことです。)

①「日経平均株価(日経平均)」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、日経平均自体および日経平均を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。②「日経」および「日経平均」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。③当ファンドは、委託会社の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用および受益権の取引等に関して一切の責任を負いません。④株式会社日本経済新聞社は、日経平均を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。⑤株式会社日本経済新聞社は、日経平均の構成銘柄、計算方法、その他日経平均の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ 収益分配について

年1回の決算時(11月20日(休業日の場合は翌営業日))に収益分配方針に従って 分配を行います。ただし、将来の分配金をお約束するものではありません。

収益分配 方針

- 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を 含みます。)等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配 対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

■ ファンドの仕組み



投資者の資金は、ベビーファンドにまとめられ、マザーファンドに投資されます。このように、実質的な運用をマザーファンドで行う方式を「ファミリーファンド方式」といいます。

※ベビーファンドは直接、わが国の金融商品取引所上場株式に投資することがあります。

※市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

■ 主な投資制限

- 株式への実質投資割合には、制限を設けません。
- ●外貨建資産への投資は行いません。

④ 信託金の限度額

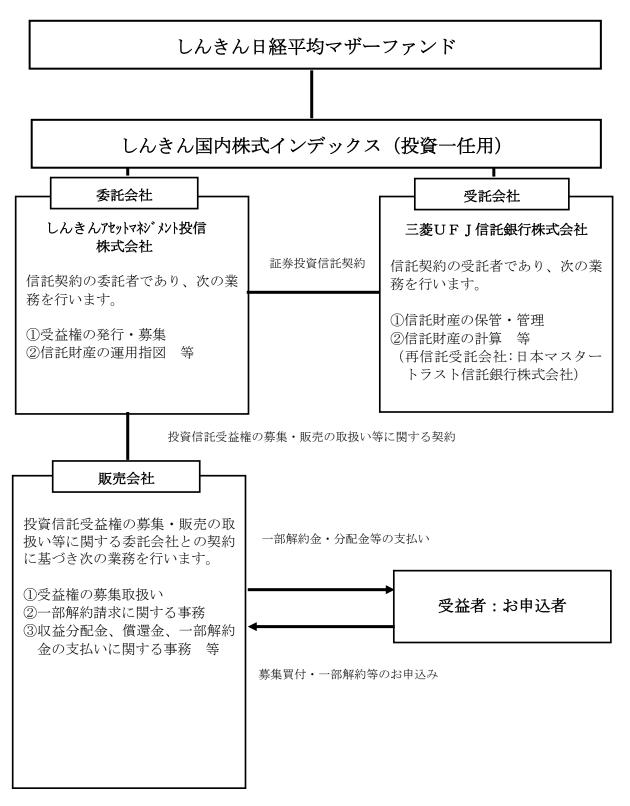
- ・5,000億円を限度額として信託金を追加できます。
- ・委託会社は受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

(2)【ファンドの沿革】

2022年2月18日 信託契約締結、当初設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

当ファンドの仕組みは、以下のとおりです。



<委託会社の概況>(本書提出日現在)

1 名称

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

② 本店の所在の場所

東京都中央区京橋三丁目8番1号

③ 資本金の額

200百万円

④ 会社の沿革

1990年12月 全信連投資顧問株式会社として設立

1991年3月 投資顧問業の登録

1992年3月 投資一任契約に係る業務の認可

1998年11月 「しんきんアセットマネジメント投信株式会社」に商号変更

1998年12月 証券投資信託委託業の認可

2007年9月 金融商品取引業者(投資運用業、投資助言・代理業)の登録

2017年8月 金融商品取引法に基づく第二種金融商品取引業の追加登録

⑤ 大株主の状況

名称	住所	所有株式数	比率
信金中央金庫	東京都中央区八重洲一丁目3番7号	4,000株	100.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

① 運用の基本方針

この投資信託は、日経平均株価(以下「日経225」といいます。) に連動する投資成果を目指して運用を行います。

② 投資対象

「しんきん日経平均マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することがあります。

③ 投資態度

- 1) 主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、日経225の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- 2) マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 3) 運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。
- 4) 株式以外の資産への実質投資割合は、原則として、信託財産総額の50%以下とします。
- 5) 市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(2)【投資対象】

① 投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

- 1) 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で 定めるものをいいます。以下同じ。)
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引に係る権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款 第22条、第23条および第24条に定めるものに限ります。)
 - ハ. 約束手形
 - 二. 金銭債権
- 2) 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形
- ② 投資の対象とする有価証券の範囲等

委託会社は、信託金を、主としてしんきんアセットマネジメント投信株式会社を委託会社とし、 三菱UF J信託銀行株式会社を受託会社として締結された「しんきん日経平均マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券のほか、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除き、かつ本邦通貨表示のものに限ります。)に投資することを指図します。

- 1) 株券または新株引受権証書
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券を除きます。)
- 6) 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
- 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
- 8) 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
- 9) 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券 (金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
- 10) コマーシャル・ペーパー
- 11) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。) および新株予約権証券
- 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
- 14) 投資証券、新投資口予約権証券、投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条 第1項第11号で定めるものをいいます。)
- 15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
- 16) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
- 17) 受益証券発行信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定めるものをいいま

す。)

- 18) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
- 19) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 20) 外国の者に対する権利で、貸付債権信託受益権であって第17号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの
- 21) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。) なお、1)の証券または証書、12)ならびに18)の証券または証書のうち1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2)から6)までの証券および12)ならびに18)の証券または証書のうち2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13)および14)の証券(新投資口予約権証券および投資法人債券を除きます。)を以下「投資信
- ③ 委託会社は、信託金を、上記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法 第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用 することの指図をすることができます。
 - 1) 預金
 - 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 - 3) コール・ローン

託証券」といいます。

- 4) 手形割引市場において売買される手形
- 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6) 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの
- ④ 上記②の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を上記③の1)から6)までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

<参考>マザーファンドの概要

「しんきん日経平均マザーファンド」

1 投資方針

投資対象

我が国の金融商品取引所上場株式のうち、日経225に採用された225銘柄を主要投資対象とします。

- ② 投資態度
 - 1) 主として我が国の金融商品取引所に上場している株式に投資し、日経225の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
 - 2) 株式(株価指数先物取引等を含む。)の組入比率は、原則として高位を保ちます。
 - 3) 運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、我が国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。
 - 4) 株式以外の資産への投資割合は、原則として、投資信託財産の総額の50%以下とします。
 - 5) 市況動向あるいは資金動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

2 投資対象

- ① 投資の対象とする資産
 - 1)特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。本邦通 貨表示のものに限ります。以下同じ。)とします。
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引に係る権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款 第18条、第19条および第20条に定めるものに限ります。)
 - ハ. 約束手形
 - 二. 金銭債権
 - 2) 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形
- ② 投資の対象とする有価証券の範囲等

委託会社は、信託金を、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

- 1) 株券または新株引受権証書
- 2) 国債証券
- 3) 地方債証券
- 4) 特別の法律により法人の発行する債券
- 5) 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券を除きます。)
- 6) 特定目的会社に係る特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
- 7) 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
- 8) 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
- 9) 特定目的会社に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
- 10) コマーシャル・ペーパー
- 11) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。) および新株予約権証券
- 12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
- 13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
- 14) 投資証券、新投資口予約権証券、投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条 第1項第11号で定めるものをいいます。)
- 15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
- 16) オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
- 17) 受益証券発行信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定めるものをいいま

す。)

- 18) 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
- 19) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
- 20) 外国の者に対する権利で、貸付債権信託受益権であって第17号の有価証券に表示されるべき 権利の性質を有するもの
- 21) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
- なお、1)の証券または証書ならびに12)、17)および18)の証券または証書のうち1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2)から6)までの証券ならびに12)、17)および18)の証券または証書のうち2)から6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13)および14)の証券ならびに17)の証券または証書のうち13)および14)の証券の性質を有するものを以下「投資信託証券」といいます。
- ③ 委託会社は、信託金を上記②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第 2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下同じ。)に より運用することを指図することができます。
 - 1) 預金
 - 2) 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 - 3) コール・ローン
 - 4) 手形割引市場において売買される手形
 - 5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 - 6) 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

3 投資制限

- ① 株式への投資割合には制限を設けません。
- ② 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ③ 投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の 5%以下とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ⑤ 外貨建資産への投資は行いません。

(3)【運用体制】

当社のファンドの運用体制は、以下のとおりです。

PLAN(計画)

投資政策委員会

基本的な運用方針、運用戦略および商品開発 に関する重要事項を審議し、決定します。



DO(実行)

運用部

投資政策委員会で決定した運用戦略に基づき、 運用計画書を策定し、ポートフォリオの構築を行いま す。 (15名程度)

トレーディング部

発注業者を選定し、有価証券等の売買執行を行います。 (4名程度)

CHECK/ACTION(検証)

コンプライアンス・運用管理委員会

信託財産の運用リスク管理に関する事項について 審議し、決定します。

経営管理部

- ・コンプライアンス実施状況に関する点検管理を
- ・投資政策委員会で決定したルールの遵守状況の チェック、リスク管理を行います。 (6名程度)

≪投資決定プロセス≫

- ① 信金中央金庫グループおよび内外の調査機関からの情報に基づき、投資環境等について当社独自の綿密な調査・分析を行います。
- ② 投資政策委員会においては、ファンダメンタルズ分析、市場分析を踏まえて基本的な投資方針を 策定します。また、基本的な投資方針に基づき当面の運用に当たってのガイドラインを決定し、併 せて個別銘柄についての分析を行い、投資対象銘柄を選定します。

※ファンドの運用体制等は、今後変更となる場合があります。

(4)【分配方針】

年1回の決算日(11月20日、休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ① 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ② 分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。
- ③ 留保益は、信託約款の運用の「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用します。

(5)【投資制限】

当ファンドの信託約款(以下「約款」といいます。) および法令では、ファンドの運用に関して 以下のとおり一定の制限および限度を定めています。

① 株式への実質投資割合には、制限を設けません。

- ② 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ③ 投資信託証券(マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券を除きます。)への実質投資 割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の 5%以下とします。
- ⑤ 外貨建資産への投資は行いません。
- ⑥ 信用取引の運用指図
 - 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの 指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻し により行うことの指図をできるものとします。
 - 2) 1)の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
 - a. 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
 - b. 株式分割により取得する株券
 - c. 有償増資により取得する株券
 - d. 売出しにより取得する株券
 - e. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(転換社債型新株予約権付社債の新 株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券
 - f. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権行使、または信託 財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権(e. に定めるものを 除きます。)の行使により取得可能な株券

⑦ 先物取引等の運用指図

- 1)委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとします。(以下同じ。)
- 2) 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引 所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけ るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
- ⑧ スワップ取引の運用指図・目的・範囲
 - 1)委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利また は異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」と いいます。)を行うことの指図をすることができます。
 - 2) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として約款に定める信託期間 を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについ てはこの限りではありません。
 - 3) スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみな

した額との合計額(以下、本項において「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。) が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由によ り、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を 超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当するスワップ取引の 一部の解約を指図するものとします。

- 4)上記3)においてマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託 財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の 総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの 受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- 5) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- 6) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、 担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- ⑨ 金利先渡取引の運用指図・目的・範囲
 - 1)委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。
 - 2)金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として約款に定める信託期間を 超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについて はこの限りではありません。
 - 3)金利先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産に係る金利先渡取引の想定元本の総額が、信託財産に係る保有金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記保有金利商品の時価総額の合計額が減少して、金利先渡取引の想定元本が保有金利商品の時価総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する金利先渡取引の一部の解約を指図するものとします。
 - 4) 金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
 - 5) 委託会社は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、 担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- ⑩ 信用リスク集中回避のための投資制限

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い、当該比率以内になるよう調整を行うこととします。

Ⅲ デリバティブ取引等に係る投資制限

デリバティブ取引等(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいいます。)について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

- ② 有価証券の貸付の指図および範囲
 - 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を、次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - a. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時

価合計額の50%を超えないものとします。

- b. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- 2) 前項各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額 に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- 3) 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

③ 有価証券の借入れ

- 1)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認められるときには、担保の提供の指図をするものとします。
- 2)上記1)の指図は、当該借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- 3) 信託財産の一部解約等の事由により、上記2) の借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産 の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する 借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
- 4)上記1)の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁するものとします。

⑭ 資金の借入れ

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支 払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。) を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。) の指図を行うことができ ます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2) 上記1) の資金借入額は、次の各号に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。
- a. 一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却等による受取りの確定して いる資金の額の範囲内
- b. 一部解約金支払日の前営業日において確定した当該支払日における当該支払資金の不足額の 範囲内
- c. 借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内
- 3)上記1)の借入期間は、有価証券等の売却等の代金の入金日までに限るものとします。
- 4) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。
- (15) 法令に基づく投資制限
- 1) 同一法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数(株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとされる株式についての議決権を含みます。)が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

2) デリバティブ取引に係る投資制限

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が

定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合に おいて、デリバティブ取引 (新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書 に係る取引および選択権付債券売買を含みます。)を行い、または継続することを受託会社 に指図しないものとします。

3【投資リスク】

当ファンドは、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預 貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではありません。ファンドの運用による利益および 損失は、すべて投資者に帰属します。

(1) 基準価額の変動要因

① 価格変動リスク

株価は、政治・経済情勢、発行体の業績、市場の需給等を反映して、短期的・長期的に大きく変動します。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。

② 信用リスク

有価証券等の発行体が経営不安、倒産等に陥った場合、またその可能性が高まった場合には当該発行体が発行する有価証券および短期金融商品の価格は下落し、場合によっては投資資金が回収できなくなることもあります。組入有価証券等の価格が下落した場合等には、基準価額が下落する要因となります。

③ 流動性リスク

流動性リスクとは、有価証券を売買する際に、需給動向により希望する時期・価格で売買することができなくなるリスクをいいます。当ファンドが投資する有価証券の流動性が損なわれた場合には、基準価額が下落する要因となります。

※上記の変動要因は主なもののみであり、上記に限定されるものではありません。

(2) その他の留意点

- ① 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(クーリング・オフ)の適用はありません。
- ② 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ③ 当ファンドの基準価額と対象インデックスは、費用等の要因により、完全に一致するものではありません。また、当ファンドの投資成果が対象インデックスとの連動または上回ることを保証するものではありません。

(3) リスクの管理体制

運用部門から独立した管理部門が、ファンドのリスクとリターンの計測・分析および法令遵守の 観点から運用状況を監視します。モニタリングを日々行い、異常が検知された場合には、直ちに関 連部門に報告し、是正を求める態勢としています。運用リスク管理状況は、原則月1回開催するコ ンプライアンス・運用管理委員会への報告を通じて、運用部門にフィードバックされ、適切なリスクの管理体制を構築しています。

また、委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。コンプライアンス・運用管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

※リスクの管理体制等は、今後変更となる場合があります。

当ファンドの年間騰落率および 基準価額 (分配金再投資後) の推移

当ファンドと代表的な資産クラスとの 年間騰落率の比較



- ※基準価額(分配金再投資後)は、2022年2月末から2023年11月末です。
- <左グラフについて>
- ※基準価額 (分配金再投資後) は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。 しんきんアセットマネジメント投信株式会社が公表している基準価額とは異なる場合があります。
- ※年間騰落率は、各月末における直近1年間の騰落率です。
- ※当ファンドの年間騰落率は、設定日が2022年2月18日のため、ファンド設定1年後の2023年2月から2023年11月までの年間騰落率を表示しています。 なお、2023年1月以前の年間騰落率については、ベンチマーク (日経平均株価(日経225)) の騰落率を表示しています。
- <右グラフについて>
- ※代表的な資産クラスについて、2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・ 最大・最小を表示したものです。当該グラフは、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成 したものであり、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ※当ファンドの年間騰落率は、設定日が2022年2月18日のため、ベンチマーク(日経平均株価(日経225))の年間騰落率を含め比較対象として表示しています。

上記のグラフ・データは過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

資産クラス	指数名	詳細	権利の帰属先
日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	日本の株式市場を広範に網羅するとともに、 投資対象としての機能性を有するマーケット・ ベンチマークで、配当を考慮したものです。	株式会社JPX総研 又は株式会社JPX 総研の関連会社
先進国株	MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進 国の株式を対象として算出した指数で、配当 を考慮したものです。	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・ マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。	MSCI Inc.
日本国債 NOMURA-BPI国債		野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。	野村フィデューシャ リー・リサーチ& コンサルティング 株式会社
先進国債	FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE Fixed Income LLCにより運営され、 日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を 各市場の時価総額で加重平均した指数です。	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JP モルガン・ガバメント・ ボンド・インデックス - エマージング・マーケッツ・ グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建国債を対象にした指数です。	J.P. Morgan Securities LLC

- (注) 海外の指数は、為替ヘッジを行わない投資を想定して、円ベースとしています。
- ※権利の帰属先は、当該指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利を有します。
- ※騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しておりますが、同社はその内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

4 【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料はありません。

(2)【換金(解約)手数料】

換金(解約)手数料および信託財産留保額はありません。

(3)【信託報酬等】

純資産総額に対して、年率 0.187% (税抜 0.17%)

1万口あたりの信託報酬:保有期間中の平均基準価額×信託報酬率×(保有日数/365)

- ※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。
- ※運用管理費用は、計算期間を通じて毎日計算され、毎計算期間の最初の6か月終了日および 毎計算期間末、または信託終了のときに信託財産から支払われます。

運用管理費用 (信託報酬)

支払先		配分 (税抜) および役務の内容
委託会社	純資産総額に対して、 年率0.14%	ファンドの運用、受託会社への運用指図、法定書類の 作成等の対価
販売会社	純資産総額に対して、 年率0.01%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理 および購入後の情報提供等の対価
受託会社	純資産総額に対して、 年率0.02%	運用財産の保管および管理、委託会社からの運用指図 の実行等の対価

(注) 「税抜」における「税」とは、消費税等をいいます。税法が改正された場合等には、上記の内容 が変更になることがあります。

(4)【その他の手数料等】

- ① 信託財産において、一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的とし資金の借入れの指図を行った場合、当該借入金の利息は信託財産から支払われます。
- ② 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立て替えた立替金の利息および信託財産に係る監査費用ならびに当該監査費用に係る消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産から支払われます。
- ③ ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に係る消費税等に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する費用は信託財産から支払われます。
- ④ 信託財産に係る監査費用は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率0.0055%(税 抜0.005%)を乗じて計算し、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期末または信託終了 のときに信託財産から支払われます。
- ⑤ 「その他の手数料等」は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を表示 することができません。
- ※当ファンドの手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間に応じて異なります ので、表示することができません。

(5)【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取り扱われます。

① 個別元本について

- 1) 受益者ごとの信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料に係る消費税等に相当する金額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。
- 2) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 3) 同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社ごとに、個別元本が算出されます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は、 当該支店等ごとに個別元本の算出が行われる場合があります。

② 収益分配金について

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分)があります。受益者が「元本払戻金(特別分配金)」を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該「元本払戻金(特別分配金)」を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

※個別元本および収益分配金の区分については、後記<個別元本および収益分配金の区分の具体例> をご参照ください。

③ 個人、法人別の課税上の取扱いについて

1) 個人の受益者に対する課税

収益分配金に対する課税	収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行い、申告分離課税または総合課税(配当控除の適用があります。)を選択することもできます。
換金時および償還時	一部解約時および償還時の差益(解約価額および償還価額から取得費用 (申込手数料(税込)を含む)を控除した利益)については、譲渡所得と みなされ、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税 5%)の税率により、申告分離課税が適用されます。
損益通算について	一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等の譲渡益と相殺することができ、申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得との損益通算も可能となります。 一部解約時および償還時の差益については、他の上場株式等の譲渡損との相殺が可能となります。 特定公社債等(公募公社債投資信託を含みます。)の譲渡益および利子等も通算が可能です。

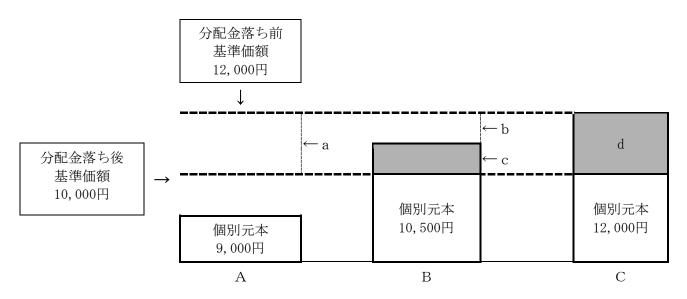
2) 法人の受益者に対する課税

	法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、
収益分配時ならびに換金	15.315%(所得税15%および復興特別所得税0.315%)の税率で源泉徴収さ
時および償還時の差益に	れ法人の受取額となります。地方税の源泉徴収はありません。
対する課税	収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであ
	り、特別分配金には課税されません。
	益金不算入制度の適用はありません。

- ※取得申込者によって取扱いが異なる場合があります。
- ※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<個別元本および収益分配金の区分の具体例>

分配金支払い前の基準価額が1万口当り12,000円、2,000円の収益分配を行い分配金落ち後の基準価額が10,000円となったケース。



A) 収益分配金受取前の個別元本が9,000円の場合

分配金落ち後の基準価額が分配金受取前の個別元本を上回っているため、a の部分(2,000円)は普通分配金となり、収益分配金落ち後の個別元本は9,000円のまま変わりません。

B) 収益分配金受取前の個別元本が10,500円の場合

分配金落ち後の基準価額が当初の個別元本を下回っている c の部分(500円)は「元本払戻金(特別分配金)」となり、収益分配金(2,000円)から c 「元本払戻金(特別分配金)」(500円)を差引いた残りの b の部分(1,500円)は普通分配金となります。

収益分配金受取後の個別元本は

収益分配金受取前個別元本(10,500円) - 「元本払戻金(特別分配金)」(500円) = 10,000円となります。

C) 収益分配金受取前の個別元本が12,000円の場合

分配金落ち後の基準価額が当初の個別元本を下回っているため、d の部分(2,000円)は「元本払戻金(特別分配金)」となります。

収益分配金受取後の個別元本は

収益分配金受取前個別元本(12,000円) - 「元本払戻金(特別分配金)」(2,000円)=10,000円となります。

※取得申込者によって、取扱いが異なる場合があります。また、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

5【運用状況】

以下は2023年11月30日現在の運用状況です。

- ※投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価または評価金額の比率です。
- ※投資比率の内訳と合計は、端数処理の関係で一致しない場合があります。

【しんきん国内株式インデックス (投資一任用)】

(1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	51, 424, 401	99.84
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	_	81, 456	0. 16
合計(純資産総額)	51, 505, 857	100.00	

(2)【投資資產】

①【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)		投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	しんきん日経平均マザーファンド	23, 922, 777	2. 1428	51, 261, 727	2. 1496	51, 424, 401	99. 84

口. 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99. 84
合計	99. 84

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

①【純資産の推移】

期別		純資産総	額(円)	1万口当たり純資産額(円)		
, A	<i>ክ</i>	(分配落) (分配付)		(分配落)	(分配付)	
第1計算期間末 (2022年11月21日)		12, 929, 991	12, 929, 991	10, 474	10, 474	
第2計算期間末	(2023年11月20日)	51, 612, 606	51, 612, 606	12, 746	12, 746	
	2022年11月末日	14, 414, 496		10, 484	_	
	12 月末日	14, 650, 384		9, 801	_	

2023 年 1 月末日	17, 012, 158	_	10, 260	_
2月末日	17, 600, 972		10, 309	_
3月末日	18, 954, 420		10, 626	
4月末日	19, 303, 900		10, 932	
5月末日	20, 488, 549	_	11, 700	
6月末日	28, 510, 875		12, 585	
7月末日	29, 339, 565		12, 580	
8月末日	35, 598, 981	_	12, 374	
9月末日	40, 552, 973		12, 168	
10 月末日	45, 673, 255		11, 787	
11 月末日	51, 505, 857	_	12, 786	

②【分配の推移】

期	計算期間	1万口当たりの分配金(円)
第1期	2022年2月18日~2022年11月21日	0
第2期	2022年11月22日~2023年11月20日	0

③【収益率の推移】

期	計算期間	収益率(%)
第1期	2022年2月18日~2022年11月21日	4. 74
第2期	2022年11月22日~2023年11月20日	21. 69

⁽注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額(分配落ち)に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に 100 を乗じた数です。

(4)【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)
第1期	2022年2月18日~2022年11月21日	12, 389, 186	44, 085
第2期	2022年11月22日~2023年11月20日	31, 384, 647	3, 236, 657

⁽注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

(参考)

しんきん日経平均マザーファンド

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率(%)
株式	日本	12, 067, 065, 600	92.99
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	_	909, 384, 569	7.01
合計(純資産総額)	12, 976, 450, 169	100.00	

その他の資産の投資状況

資産の種類	建別	国/地域	時価合計 (円)	投資比率(%)
株価指数先物取引	買建	日本	904, 500, 000	6. 97

⁽注) 先物取引は、主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	ファーストリテイリ ング	小売業	36, 000	33, 447. 69	1, 204, 116, 840	37, 490. 00	1, 349, 640, 000	10.40
2	日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	36, 000	20, 387. 69	733, 956, 840	24, 025. 00	864, 900, 000	6. 67
3	日本	株式	アドバンテスト	電気機器	96, 000	4, 203. 11	403, 498, 560	4, 681. 00	449, 376, 000	3. 46
4	日本	株式	ソフトバンクグルー プ	情報・通 信業	72, 000	6, 547. 61	471, 427, 920	6, 020. 00	433, 440, 000	3. 34
5	日本	株式	KDDI	情報・通 信業	72, 000	4, 434. 23	319, 264, 560	4, 625. 00	333, 000, 000	2. 57
6	日本	株式	信越化学工業	化学	60,000	4, 552. 84	273, 170, 400	5, 212. 00	312, 720, 000	2.41
7	日本	株式	ダイキン工業	機械	12,000	24, 492. 30	293, 907, 600	22, 155. 00	265, 860, 000	2.05
8	日本	株式	TDK	電気機器	36, 000	5, 304. 53	190, 963, 080	6, 870. 00	247, 320, 000	1.91
9	日本	株式	ファナック	電気機器	60, 000	4, 016. 30	240, 978, 000	4, 114. 00	246, 840, 000	1.90
10	日本	株式	テルモ	精密機器	48,000	4, 244. 15	203, 719, 200	4, 718. 00	226, 464, 000	1.75
11	日本	株式	リクルートホールデ ィングス	サービス 業	36, 000	5, 048. 69	181, 752, 840	5, 505. 00	198, 180, 000	1. 53
12	日本	株式	京セラ	電気機器	24, 000	7, 393. 92	177, 454, 080	8, 190. 00	196, 560, 000	1.51
13	日本	株式	中外製薬	医薬品	36, 000	4, 477. 92	161, 205, 120	5, 218. 00	187, 848, 000	1.45
14	日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機 器	60,000	2, 593. 26	155, 595, 600	2, 794. 50	167, 670, 000	1. 29
15	日本	株式	レーザーテック	電気機器	4, 800	23, 458. 15	112, 599, 120	33, 040. 00	158, 592, 000	1.22
16	日本	株式	ソニーグループ	電気機器	12,000	12, 463. 07	149, 556, 840	12, 820. 00	153, 840, 000	1.19
17	日本	株式	第一三共	医薬品	36, 000	4, 095. 92	147, 453, 120	4, 000. 00	144, 000, 000	1.11
18	日本	株式	日東電工	化学	12, 000	10, 005. 76	120, 069, 120	10, 515. 00	126, 180, 000	0.97
19	日本	株式	セコム	サービス 業	12, 000	10, 216. 53	122, 598, 360	10, 295. 00	123, 540, 000	0.95
20	日本	株式	デンソー	輸送用機器	48, 000	2, 482. 51	119, 160, 480	2, 314. 00	111, 072, 000	0.86
21	日本	株式	キッコーマン	食料品	12, 000	8, 317. 69	99, 812, 280	9, 065. 00	108, 780, 000	0.84

22	日本	株式	本田技研工業	輸送用機 器	72, 000	1, 639. 65	118, 054, 800	1, 509. 00	108, 648, 000	0.84
23	日本	株式	アステラス製薬	医薬品	60,000	2, 152. 46	129, 147, 600	1, 797. 50	107, 850, 000	0.83
24	日本	株式	NTTデータグルー プ	情報・通 信業	60, 000	1, 983. 11	118, 986, 600	1, 797. 00	107, 820, 000	0.83
25	日本	株式	バンダイナムコホー ルディングス	その他製品	36, 000	3, 224. 61	116, 085, 960	2, 943. 00	105, 948, 000	0.82
26	日本	株式	オリンパス	精密機器	48, 000	1, 952. 34	93, 712, 320	2, 166. 00	103, 968, 000	0.80
27	日本	株式	富士フイルムホール ディングス	化学	12, 000	8, 725. 76	104, 709, 120	8, 660. 00	103, 920, 000	0.80
28	日本	株式	НОҮА	精密機器	6, 000	15, 854. 23	95, 125, 380	16, 665. 00	99, 990, 000	0.77
29	日本	株式	豊田通商	卸売業	12, 000	8, 727. 23	104, 726, 760	8, 190. 00	98, 280, 000	0.76
30	日本	株式	エーザイ	医薬品	12, 000	8, 842. 84	106, 114, 080	7, 672. 00	92, 064, 000	0.71

口. 種類別及び業種別の投資比率

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	水産・農林業	0.07
		鉱業	0.08
		建設業	1. 56
		食料品	3. 29
		繊維製品	0. 10
		パルプ・紙	0.06
		化学	6. 22
		医薬品	5. 92
		石油・石炭製品	0. 20
		ゴム製品	0.72
		ガラス・土石製品	0. 69
		鉄鋼	0.08
		非鉄金属	0.66
		金属製品	0.02
		機械	4. 50
		電気機器	24. 46
		輸送用機器	4. 39
		精密機器	3. 53
		その他製品	2. 13
		電気・ガス業	0. 16
		陸運業	1. 21
		海運業	0.37
		空運業	0. 29
		倉庫・運輸関連業	0. 20
		情報・通信業	9. 35
		卸売業	2. 95
		小売業	12. 19
		銀行業	0. 63

	 証券、商品先物取引業	0. 14
	保険業	0. 85
	その他金融業	0. 76
	不動産業	1. 07
	サービス業	4. 14
合計		92. 99

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

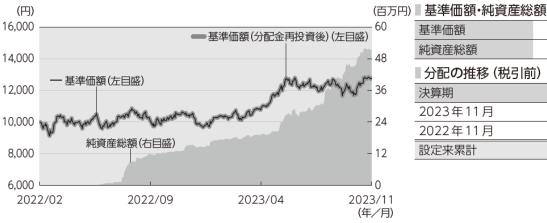
資産の種類	取引所	資産の名称	買建/ 売建	数量	通貨	帳簿価額 (円)	評価額 (円)	投資比率 (%)
株価指数先物 取引	大阪取引所	日経平均株価指数先物	買建	27	日本円	896, 873, 300	904, 500, 000	6. 97

(注) 先物取引は、主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しています。

データは2023年11月30日現在です。

※下記のグラフ・データは過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。 ※端数処理の都合上、各欄の合計が合計欄と一致しない場合や、比率の合計が100にならない場合等があります。

基準価額・純資産の推移



基準価額 12,786円 純資産総額 51.5百万円

■分配の推移(税引前)

決算期	分配金
2023年11月	0円
2022年11月	0円
設定来累計	0円

主要な資産の状況

■資産別投資比率

		銘柄名	投資比率
	1	しんきん日経平均マザーファンド	99.84%
Ī	2	現金・その他	0.16%

※投資比率は、しんきん国内株式インデックス (投資 一任用) の純資産総額に対する当該資産の時価の 比率です。

■(参考) しんきん日経平均マザーファンドの状況

	組入上位10銘柄		
	銘柄名	業種	投資比率
1	ファーストリテイリング	小売業	10.40%
2	東京エレクトロン	電気機器	6.67%
3	アドバンテスト	電気機器	3.46%
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.34%
5	KDDI	情報・通信業	2.57%
6	信越化学工業	化学	2.41%
7	ダイキン工業	機械	2.05%
8	TDK	電気機器	1.91%
9	ファナック	電気機器	1.90%
10	テルモ	精密機器	1.75%

	組入上位10業種	
	業種	投資比率
1	電気機器	24.46%
2	小売業	12.19%
3	情報・通信業	9.35%
4	化学	6.22%
5	医薬品	5.92%
6	機械	4.50%
7	輸送用機器	4.39%
8	サービス業	4.14%
9	精密機器	3.53%
10	食料品	3.29%

資産構成比			
	投資比率		
株式	92.99%		
株式先物	6.97%		
現金・その他	0.04%		

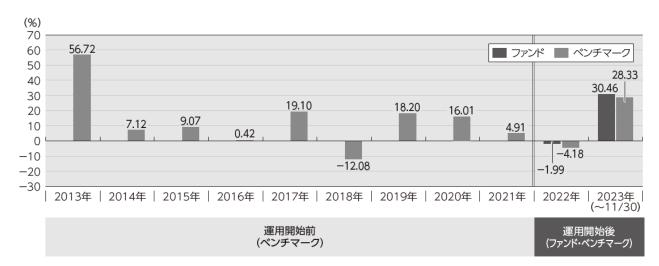
※投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

[※]基準価額および分配金は1万口当たりです。

[※]基準価額(分配金再投資後)は決算日の翌営業日に分配金を非課税で再投資したものとして計算しています。

[※]しんきん日経平均マザーファンドの純資産総額は、12,976百万円です。

年間収益率の推移 (期間:2013年~2023年)



- ※ 2013年から 2021年はベンチマークの騰落率を表示しており、当ファンドの運用実績ではありません。
- ※2022年は2月18日(設定日)から同年最終営業日までの当ファンドおよびベンチマークの実績収益率を表示しています。
- ※当該ベンチマークの情報はあくまで参考情報として記載しており、当ファンドの運用実績ではありません。
- ※上記の収益率は決算時の分配金を非課税で再投資したものとして計算しています。
- ※最新の運用実績はしんきんアセットマネジメント投信(株)のホームページで運用レポートとしてお知らせしています。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売)手続等】

- (1)申込みの際、取得申込者は、販売会社との間の権利義務関係を明確にすることを目的とした契約を結びます。
- (2)分配金の受取方法により、「分配金再投資コース」と「分配金受取コース」の2つのコースがあります。(販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。) 分配金再投資コースを選択した場合、販売会社と「自動けいぞく投資契約」(同様の権利義務を規定する名称の異なる契約または規定も含みます)を締結します。
- (3)申込単位は、販売会社が定める単位です。
- (4)申込みに係る受益権の価額は、取得申込受付日の基準価額です。収益分配金を再投資する場合の受益権の買付価額は、原則として、各計算期間終了日の基準価額とします。
- (5)各営業日の午後3時までに受け付けた取得の申込みを、当日の申込受付分として取り扱います。この時刻を過ぎて行われる申込みは、翌営業日以降の取扱いとなります。
- (6)委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情がある ときは、取得申込みの受付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受付けを取り消 すことができます。
- (7)取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を 行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の 記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当 該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、 追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録を するため振替法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社か ら振替機関への通知があった場合、振替法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載ま たは記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替 機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。
 - ※ファンドの申込(販売)手続についてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせください。

<照会先>

しんきんアセットマネジメント投信株式会社(委託会社) <コールセンター>0120-781812 携帯電話からは03-5524-8181(受付時間:営業日の9:00~17:00) <ホームページ>https://www.skam.co.jp

2【換金(解約)手続等】

- (1)受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行を請求することにより換金することができます。
- (2)各営業日の午後3時までに受け付けた一部解約の実行の請求を、当日の申込受付分として取り扱います。この時刻を過ぎて行われる請求は、翌営業日以降の取扱いとなります。
- (3)受益者は、自己に帰属する受益権につき、1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。受益者が一部解約の実行を請求するときは、販売会社に対し振替受益権をもって行うものとします。委託会社は、一部解約の実行の請求を受けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

- (4)解約価額は、一部解約の実行の請求を受け付けた日の基準価額とします。
- (5)解約時の課税に関しては、前記「ファンド情報 第1 ファンドの状況」の「4 手数料等及び税金 (5)課税上の取扱い」をご覧ください。
- (6)一部解約金に係る収益調整金(注)は、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。
- (7)委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付けを取り消すことができます。一部解約の実行の請求受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、(4)の規定に準じて算定した価額とします。
- (8)解約代金の支払いは、原則として上記解約請求日から起算して4営業日目から販売会社の営業所等で支払われます。
- (9)受託会社は、一部解約代金について、受益者への支払開始日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払い込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。
- (10) 換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、振替法の規定に従い、当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- (11)信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の換金申込には制限があります。
- (注) 収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者ごとの信託時の受益権の価額と元本の差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。
 - ※ファンドの換金(解約)手続きについてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせください。

<照会先>

しんきんアセットマネジメント投信株式会社(委託会社) <コールセンター>0120-781812 携帯電話からは03-5524-8181(受付時間:営業日の9:00~17:00) <ホームページ>https://www.skam.co.jp

3【資産管理等の概要】

- (1)【資産の評価】
 - ① 基準価額の計算方法
 - ・基準価額は、委託会社によって毎営業日算出されます。
 - ・基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。) を法令または一部償却原価法および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た 信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます。)を、計

算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

(ただし、便宜上1万口当たりに換算した基準価額で表示することがあります。)

・基準価額は、委託会社および販売会社に問い合わせることにより知ることができるほか、原則と して日本経済新聞朝刊に掲載されます。

<照会先>

しんきんアセットマネジメント投信株式会社(委託会社) <コールセンター>0120-781812 携帯電話からは03-5524-8181(受付時間:営業日の9:00~17:00) <ホームページ>https://www.skam.co.jp

- ② ファンドの主要な投資対象資産の評価方法
 - 1) 親投資信託受益証券 原則として、計算日の基準価額で評価します。
 - 2) 株式

原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価額)、または金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価します。

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

信託期間は無期限です。ただし、後記「(5) その他」の「① ファンドの繰上償還条項」により 信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

(4)【計算期間】

- ① この信託の計算期間は、原則として毎年11月21日から翌年11月20日までとします。
- ② 各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、約款に定める信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

- ① ファンドの繰上償還条項
 - 1) 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより受益権の総口数が30 億口を下回ることとなった場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃となるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
 - 2) 委託会社は、上記1) の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を 行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日および信託契約の解約の理由など の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対 し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
 - 3)上記2)の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益

権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。) は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

- 4)上記2)の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる 多数をもって行います。
- 5)上記2)から4)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、 当該提案につき、この信託契約に係る全ての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思 表示をしたときには適用しません。
- 6) 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信 託契約を解約し信託を終了させます。
- 7) 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、信託約款の変更の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- 8) 受託会社がその任務を辞任する場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

② 信託約款の変更

- 1)委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、 受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投 資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」を いいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようと する旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款に定める以外の方法によ って変更することができないものとします。
- 2) 委託会社は、上記1) の事項(上記1) の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、上記1) の併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。) について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日および重大な約款の変更等の内容ならびにその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
- 3) 上記 2) の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本項において同じ。) は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- 4) 上記2) の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 5) 書面決議の効力は、この信託の全ての受益者に対してその効力を生じます。
- 6)上記2)から5)までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係る全ての受益者が書面または電磁的記録により同意

の意思表示をしたときには適用しません。

7)上記1)から6)の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

③ 反対受益者の受益権買取請求の不適用

この信託は、受益者が信託約款の規定による一部解約請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託約款に規定する信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

④ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約(投資信託受益権の募集・販売の取扱等に関する契約書)は、期間満了の1か月前までに当事者のいずれからも、別段の意思表示がない場合は、自動的に1年更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託会社と販売会社との合意により、随時変更される場合があります。

⑤ 運用報告書

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に基づき、毎計算期間の末日(原則11月20日)および償還日を基準に交付運用報告書を作成し、基準日に保有している投資者に販売会社を通じて交付します。

⑥ 公告

委託会社が受益者に対して行う公告は、日本経済新聞に掲載されます。

4 【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次のとおりです。

(1)収益分配金に対する請求権

① 収益分配金は、毎計算期間終了日後1か月以内の委託会社の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。上記にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が販売会社に支払われます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込みに応じるものとします。当該取得申込みにより増加し

② 受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(2) 償還金に対する請求権

① 受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

た受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

② 償還金は、信託終了日後1か月以内の委託会社の指定する日から信託終了日において振替機関等

の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対し委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、振替法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録を行います。

- ③ 償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行います。
- ④ 受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属します。

(3)換金(解約)請求権

受益者は、委託会社に受益権の一部解約の実行を請求することにより換金する権利を有します。 権利行使の方法等については、上記「第2 管理及び運営」の「2 換金(解約)手続等」をご参照く ださい。

(4)帳簿閲覧·謄写請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者に係る信託財産に関する書類の閲覧または謄写の請求をすることができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期(2022年11月22日から2023年11月20日まで)の財務諸表について、PwC Japan 有限責任監査法人による監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2024年2月9日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社 取締役会御中

> PwC Japan有限責任監査法人 東京事務所 指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 鶴田 光夫

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」 に掲げられているしんきん国内株式インデックス (投資一任用) の 2022 年 11 月 22 日から 2023 年 11 月 20 日まで の計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を 行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、しんきん国内株式インデックス(投資一任用)の 2023 年 11 月 20 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、しんきんアセットマネジメント投信株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書(訂正有価証券届出書を含む)に含まれる情報のうち、 財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。 当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の 記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査 手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分 かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理 性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠している かどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取 引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

しんきんアセットマネジメント投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計 士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
 - 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

(1)【真旧对派权】		(単位:円)
	前期 (2022年11月21日現在)	当期 (2023年11月20日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	_	61, 119
コール・ローン	15, 195	22, 316
親投資信託受益証券	12, 920, 559	51, 561, 979
流動資産合計	12, 935, 754	51, 645, 414
資産合計	12, 935, 754	51, 645, 414
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	664	3, 754
未払委託者報酬	4, 976	28, 171
その他未払費用	123	883
流動負債合計	5, 763	32, 808
負債合計	5, 763	32, 808
純資産の部		
元本等		
元本	*1, *2 12, 345, 101	x_1, x_2 40, 493, 091
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金(△)	584, 890	11, 119, 515
(分配準備積立金)	168, 441	5, 086, 901
元本等合計	12, 929, 991	51, 612, 606
純資産合計	12, 929, 991	51, 612, 606
負債純資産合計	12, 935, 754	51, 645, 414

(2) 【損益及び剰余金計算書】

		(単位:円)_
	前期 (自 2022年2月18日 至 2022年11月21日)	当期 (自 2022年11月22日 至 2023年11月20日)
営業収益		
有価証券売買等損益	173, 959	5, 441, 420
営業収益合計	173, 959	5, 441, 420
営業費用		
受託者報酬	756	5, 614
委託者報酬	5, 695	42, 051
その他費用	248	1, 287
営業費用合計	6, 699	48, 952
営業利益又は営業損失(△)	167, 260	5, 392, 468
経常利益又は経常損失(△)	167, 260	5, 392, 468
当期純利益又は当期純損失(△)	167, 260	5, 392, 468
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解 約に伴う当期純損失金額の分配額(△)	△1, 181	449, 697
期首剰余金又は期首欠損金(△)	_	584, 890
剰余金増加額又は欠損金減少額	416, 820	5, 838, 364
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減 少額	416, 820	5, 838, 364
剰余金減少額又は欠損金増加額	371	246, 510
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増 加額	371	246, 510
分配金	<u>*1 -</u>	<u>*1 — </u>
期末剰余金又は期末欠損金(△)	584, 890	11, 119, 515

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1	. 有価証券の評価基準 及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、当該親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。
2	. その他財務諸表作成 のための基礎となる 事項	計算期間の取扱い 当計算期間は、前期末が休日のため、2022年11月22日から2023年11月20 日までとなっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

前期	当期
(2022年11月21日現在)	(2023年11月20日現在)
当計算期間の財務諸表の作成にあたって行った 会計上の見積りが当計算期間の翌計算期間の財務 諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していな いため、注記を省略しております。	同左

(貸借対照表に関する注記)

区分	前期 (2022年11月21日現在)		当期 (2023年11月20日現在)	
※1信託財産に係る期 首元本額、期中追加 設定元本額及び期 中一部解約元本額	期首元本額 期中追加設定元本額 期中一部解約元本額	100,000円 12,289,186円 44,085円	期首元本額 期中追加設定元本額 期中一部解約元本額	12, 345, 101円 31, 384, 647円 3, 236, 657円
※2計算期間末日にお ける受益権の総数		12, 345, 101 □		40, 493, 091 □

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

	前期			当期	
	(自 2022年2月18日		(自 2022年11月22日		
	至 2022年11月21日)		至 2023年11月20日)	
*	1 分配金の計算過程		※ 1	1 分配金の計算過程	
A	費用控除後の配当等収益額	89, 599 円	A	費用控除後の配当等収益額	507, 944 円
В	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益額	78,842 円	В	費用控除後・繰越欠損金補填後 の有価証券売買等損益額	4, 434, 827 円
С	収益調整金額	416, 449 円	С	収益調整金額	6,032,614 円
D	分配準備積立金額	0 円	D	分配準備積立金額	144, 130 円
Е	当ファンドの分配対象収益額	584, 890 円	Е	当ファンドの分配対象収益額	11, 119, 515 円
F	当ファンドの期末残存口数	12, 345, 101 □	F	当ファンドの期末残存口数	40, 493, 091 □
G	10,000口当たり収益分配対象額	473 円	G	10,000口当たり収益分配対象額	2,746円
Н	10,000口当たり分配金額	0 円	Н	10,000口当たり分配金額	0 円
Ι	収益分配金金額	0 円	Ι	収益分配金金額	0 円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

		前期 (自 2022年 2 月 18日	当期 (自 2022年11月22日
	区分	至 2022年2月18日	至 2023年11月20日)
1.	金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への投資並びにデリバティブ取引を、信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.	金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券であります。当該有価証券には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3.	金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した管理部門が、ファンドのリスクとリターンの計測・分析および法令遵守の観点から運用状況を監視してを強力を監視してをでい、直が後知された場合には、直には、直に、を対しては、直が後期には、原則月1には、を求める管理状況は、原則月1運産がある。では、原則月1によりででは、原則月1によりででは、原則月ででは、原則月ででは、原則月ででは、原則にフィードバックを通じて、、適には、の管理体制を構築しております。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

	区分	前期 (2022年11月21日現在)	当期 (2023年11月20日現在)		
1.	貸借対照表計上額、時価及び その差額	貸借対照表計上額は期末の時価 で計上しているため、その差額は ありません。	同左		
2.	時価の算定方法	(1)有価証券 (重要な会計方針に係る事 項に関する注記)に記載して おります。	(1)有価証券 同左		
		(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。	(2)デリバティブ取引 同左		
		(3)有価証券及びデリバティブ取 引以外の金融商品	(3)有価証券及びデリバティブ取 引以外の金融商品		

	有価証券及びデリバティ ブ取引以外の金融商品は、短 期間で決済され、時価は帳簿 価額と近似していることか ら、当該金融商品の帳簿価額 を時価としております。	
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

	前期 (2022年11月21日現在)	当期 (2023年11月20日現在)
種類	当計算期間の損益に含まれた 評価差額	当計算期間の損益に含まれた 評価差額
親投資信託受益証券	174,710円	5, 118, 961円
合計	174,710円	5, 118, 961円

(デリバティブ取引等に関する注記)

前期	当期
(2022年11月21日現在)	(2023年11月20日現在)
該当事項はありません。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

前期	当期
(自 2022年2月18日	(自 2022年11月22日
至 2022年11月21日)	至 2023年11月20日)
該当事項はありません。	同左

(1口当たり情報)

前期 (2022年11月21日現在)	当期 (2023年11月20日現在)
1口当たり純資産額 1.0474円	1口当たり純資産額 1.2746円
(1万口当たり純資産額 10,474円)	(1万口当たり純資産額 12,746円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

 株式 該当事項はありません。

② 株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額(円)	評価額 (円)	備考
親投資信託受益証券	しんきん日経平均マザー ファンド	24, 062, 899	51, 561, 979	
親投資信託受	· 益証券 合計	24, 062, 899	51, 561, 979	
台	計	24, 062, 899	51, 561, 979	

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表 注記表 (デリバティブ取引等に関する注記) に記載しております。

(参考情報)

当ファンドは、「しんきん日経平均マザーファンド」受益証券を主要な投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託受益証券であります。 なお、同親投資信託の状況は次のとおりであります。

「しんきん日経平均マザーファンド」の状況 以下に記載した情報は、監査法人による監査の対象外であります。

財務諸表

しんきん日経平均マザーファンド

(1) 貸借対照表

区分		2023年11月20日現在
科目	注記 番号	金額(円)
資産の部		
流動資産		
金銭信託		96, 271, 111
コール・ローン		35, 150, 371
株式		12, 031, 438, 920
派生商品評価勘定		5, 210, 000
未収入金		1, 003, 667, 794
未収配当金		73, 186, 650
差入委託証拠金		56, 947, 285
流動資産合計		13, 301, 872, 131
資産合計		13, 301, 872, 131
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定		2, 875, 240
前受金		10, 717, 880
未払金		210, 980
未払解約金		201, 300, 000
未払利息		105
その他未払費用		22, 762
流動負債合計		215, 126, 967
負債合計		215, 126, 967
純資産の部		
元本等		
元本	※ 1, ※ 2	6, 107, 227, 156
剰余金		
剰余金又は欠損金(△)		6, 979, 518, 008
元本等合計		13, 086, 745, 164
純資産合計		13, 086, 745, 164
負債純資産合計		13, 301, 872, 131

(2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価 方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価 評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場(最終相場の ないものについては、それに準ずる価額)、又は金融商品取引業者 等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価 にあたっては、原則として本報告書における開示対象ファンドの計 算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段 又は最終相場によっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

2023年11月20日現在

本報告書における開示対象ファンドの当期間の財務諸表の作成にあたって行った会計上の見積りが本書における開示対象ファンドの当期間の翌期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクは識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

(貸借対照表に関する注記)	
区分	2023年11月20日現在
※1信託財産に係る期首元本額、 期中追加設定元本額及び期中	期首元本額 6,289,650,091円
一部解約元本額	期中追加設定元本額 4,665,406,923円 期中一部解約元本額
	4,847,829,858円
元本の内訳	しんきん日経平均オープン
	4,366,514,175円 しんきんノーロード日経225
	595, 191, 698円 しんきんDC日経225株式ファンド
	445, 521, 189円
	しんきん国内株式インデックス(投資一任用) 24,062,899円
	しんきん日米バランスファンド (分配抑制) (適格機関投資家限定)
	315, 334, 847円 しんきん日米 5 資産分散ファンド 2 0 - 0 7
	(適格機関投資家限定)
	140,483,902円 しんきん日米仏7資産バランスファンド21-04 (適格機関投資家限定)
	93,545,180円 しんきん日米 5 資産分散ファンド 2 1 - 1 1
	(適格機関投資家限定) 126, 573, 266円
	合計 6,107,227,156円
	1

※2本報告書における開示対象ファンドの計算期間末日における受益権の総数

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

区分	自 2022年11月22日 至 2023年11月20日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券等の金融商品への 投資並びにデリバティブ取引を、信託約款に定める「運用の基本 方針」に基づき行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な金融商品は「重要な会計方針に係る 事項に関する注記」の「有価証券の評価基準及び評価方法」に記 載の有価証券及びデリバティブ取引であります。デリバティブ取 引には日経225先物取引が含まれております。当該有価証券及び デリバティブ取引には、性質に応じてそれぞれ価格変動リスク、 流動性リスク、信用リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用部門から独立した管理部門が、ファンドのリスクとリターンの計測・分析および法令遵守の観点から運用状況を監視しております。モニタリングを日々行い、異常が検知された場合には、直ちに関連部門に報告し、是正を求める態勢としております。運用リスク管理状況は、原則月1回開催するコンプライアンス・運用管理委員会への報告を通じて、運用部門にフィードバックされ、適切なリスクの管理体制を構築しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

区分	2023年11月20日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は本報告書における開示対象ファンドの計算 期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載してお ります。
	(2)デリバティブ取引 (デリバティブ取引等に関する注記)に記載しております。
	(3)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間 で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該 金融商品の帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

	·
	2023年11月20日現在
種類	当期間の損益に含まれた評価差額
株式	404, 412, 456円
合計	404, 412, 456円

(注) 当期間の損益に含まれた評価差額は、親投資信託の期首日から本報告書における開示対象ファンドの期末日までの期間に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

(株式関連) (単位:円)

		2023年11月20日現在			
区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超	h44.11ml	
市場取引	株価指数先物取引				
	買建	963, 915, 540		966, 280, 000	2, 364, 460
	合計	963, 915, 540		966, 280, 000	2, 364, 460

(注) 1. 時価の算定方法

本報告書における開示対象ファンドの計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

- 2. 先物取引の残高表示は、契約額ベースであります。
- 3. 契約額等には手数料相当額を含んでおりません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2022年11月22日 至 2023年11月20日
該当事項はありません。

(1口当たり情報)

2023年11月20日現在	
1 口当たり純資産額 2.1428円 (1万口当たり純資産額 21,428円)	

(3) 附属明細表

第1 有価証券明細表

① 株式____

タ類 # オ**/# 評価額		価額	供求	
銘柄	株式数(株)	単価(円)	金額(円)	備考
ニッスイ	12, 000	705. 80	8, 469, 600	
INPEX	4, 800	2, 097. 00	10, 065, 600	
コムシスホールディングス	12, 000	3, 184. 00	38, 208, 000	
大成建設	2, 400	5, 375. 00	12, 900, 000	
大林組	12,000	1, 276. 00	15, 312, 000	
清水建設	12, 000	977. 50	11, 730, 000	
長谷エコーポレーション	2, 400	1, 811. 50	4, 347, 600	
鹿島建設	6, 000	2, 284. 50	13, 707, 000	
大和ハウス工業	12, 000	4, 244. 00	50, 928, 000	
積水ハウス	12, 000	3, 021. 00	36, 252, 000	
日揮ホールディングス	12, 000	1, 660. 50	19, 926, 000	
日清製粉グループ本社	12, 000	2, 098. 50	25, 182, 000	
明治ホールディングス	4, 800	3, 417. 00	16, 401, 600	
日本ハム	6, 000	4, 322. 00	25, 932, 000	
サッポロホールディングス	2, 400	5, 673. 00	13, 615, 200	
アサヒグループホールディングス	12, 000	5, 525. 00	66, 300, 000	
キリンホールディングス	12, 000	2, 167. 00	26, 004, 000	
宝ホールディングス	12,000	1, 163. 00	13, 956, 000	
キッコーマン	12,000	9, 438. 00	113, 256, 000	
味の素	12, 000	5, 633. 00	67, 596, 000	
ニチレイ	6, 000	3, 207. 00	19, 242, 000	
日本たばこ産業	12, 000	3, 758. 00	45, 096, 000	
帝人	2, 400	1, 341. 50	3, 219, 600	
東レ	12,000	785.00	9, 420, 000	
王子ホールディングス	12,000	573. 30	6, 879, 600	
日本製紙	1, 200	1, 291. 00	1, 549, 200	
クラレ	12, 000	1, 550. 50	18, 606, 000	
旭化成	12, 000	1, 007. 00	12, 084, 000	
レゾナック・ホールディングス	1, 200	2, 693. 50	3, 232, 200	
住友化学	12, 000	387. 20	4, 646, 400	
日産化学	12, 000	5, 600. 00	67, 200, 000	
東ソー	6,000	1, 913. 00	11, 478, 000	
トクヤマ	2, 400	2, 356. 50	5, 655, 600	
デンカ	2, 400	2, 597. 00	6, 232, 800	
信越化学工業	60,000	5, 160. 00	309, 600, 000	

ニサルヴ	2 400	4 000 00	0 916 000
三	2, 400	4, 090. 00	9, 816, 000
三菱ケミカルグループ	6,000	957. 00	5, 742, 000
UBE 花王	1, 200	2, 317. 00	2, 780, 400 66, 228, 000
		5, 519. 00	
DIC 富士フイルムホールディングス	1, 200	2, 395. 50	2, 874, 600
	12,000	8, 698. 00	104, 376, 000
資生堂	12,000	4, 320. 00	51, 840, 000
日東電工	12, 000	10, 615. 00	127, 380, 000
協和キリン	12, 000	2, 441. 00	29, 292, 000
武田薬品工業	12,000	4, 190. 00	50, 280, 000
アステラス製薬	60,000	1, 808. 50	108, 510, 000
住友ファーマ	12,000	480. 00	5, 760, 000
塩野義製薬	12,000	7, 097. 00	85, 164, 000
中外製薬	36, 000	4, 880. 00	175, 680, 000
エーザイ	12,000	7, 721. 00	92, 652, 000
第一三共	36, 000	3, 947. 00	142, 092, 000
大塚ホールディングス	12, 000	5, 475. 00	65, 700, 000
出光興産	4, 800	4, 120. 00	19, 776, 000
ENEOSホールディングス	12, 000	596. 50	7, 158, 000
横浜ゴム	6, 000	3, 113. 00	18, 678, 000
ブリヂストン	12, 000	5, 925. 00	71, 100, 000
AGC	2, 400	5, 387. 00	12, 928, 800
日本電気硝子	3, 600	3, 051. 00	10, 983, 600
住友大阪セメント	1, 200	3, 562. 00	4, 274, 400
太平洋セメント	1, 200	2, 750. 00	3, 300, 000
東海カーボン	12, 000	1, 087. 50	13, 050, 000
ТОТО	6, 000	3, 910. 00	23, 460, 000
日本碍子	12, 000	1, 789. 50	21, 474, 000
日本製鉄	1, 200	3, 401. 00	4, 081, 200
神戸製鋼所	1, 200	1, 740. 50	2, 088, 600
J F E ホールディングス	1, 200	2, 228. 00	2, 673, 600
大平洋金属	1, 200	1, 333. 00	1, 599, 600
三井金属鉱業	1, 200	4, 282. 00	5, 138, 400
三菱マテリアル	1, 200	2, 431. 50	2, 917, 800
住友金属鉱山	6, 000	4, 365. 00	26, 190, 000
DOWAホールディングス	2, 400	5, 121. 00	12, 290, 400
古河電気工業	1, 200	2, 391. 50	2, 869, 800
住友電気工業	12,000	1, 828. 00	21, 936, 000
フジクラ	12,000	1, 126. 00	13, 512, 000
SUMCO	1, 200	2, 137. 00	2, 564, 400
日本製鋼所	2, 400	2, 576. 00	6, 182, 400

SMC 小松製作所 住友重機械工業 日立建機 クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 IHI コニカミノルタ ネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック	2, 400 12, 000 1, 200 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 1, 200 1, 200 1, 200 12, 000 1, 200 12, 000	6, 291. 00 1, 457. 50 75, 570. 00 3, 829. 00 3, 444. 00 4, 025. 00 2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00 2, 865. 50	15, 098, 400 17, 490, 000 90, 684, 000 45, 948, 000 8, 265, 600 48, 300, 000 25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400 10, 185, 600
SMC 小松製作所 住友重機械工業 日立建機 クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 IHI コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	1, 200 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 1, 200 1, 200 12, 000 12, 000	75, 570. 00 3, 829. 00 3, 444. 00 4, 025. 00 2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	90, 684, 000 45, 948, 000 8, 265, 600 48, 300, 000 25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
小松製作所 住友重機械工業 日立建機 クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12,000 2,400 12,000 2,400 12,000 12,000 12,000 12,000 2,400 1,200 1,200 12,000 12,000	3, 829. 00 3, 444. 00 4, 025. 00 2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	45, 948, 000 8, 265, 600 48, 300, 000 25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
住友重機械工業 日立建機 クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	2, 400 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 1, 200 1, 200 12, 000 12, 000	3, 444. 00 4, 025. 00 2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	8, 265, 600 48, 300, 000 25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
日立建機 クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12,000 12,000 2,400 12,000 12,000 12,000 2,400 1,200 1,200 12,000 12,000	4, 025. 00 2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	48, 300, 000 25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
クボタ 荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 左川電機 ニデック オムロン	12,000 2,400 12,000 12,000 12,000 2,400 1,200 1,200 12,000 12,000	2, 129. 50 8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	25, 554, 000 19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
荏原製作所 ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 IHI コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	2, 400 12, 000 12, 000 12, 000 2, 400 1, 200 1, 200 12, 000	8, 253. 00 23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	19, 807, 200 286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
ダイキン工業 日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 IHI コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12, 000 12, 000 12, 000 12, 000 2, 400 1, 200 1, 200 12, 000	23, 850. 00 791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	286, 200, 000 9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
日本精工 NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12, 000 12, 000 12, 000 2, 400 1, 200 1, 200 12, 000	791. 80 283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	9, 501, 600 3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
NTN ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12, 000 12, 000 2, 400 1, 200 1, 200 12, 000	283. 20 1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	3, 398, 400 16, 104, 000 2, 066, 400
ジェイテクト 日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12, 000 2, 400 1, 200 1, 200 12, 000 12, 000	1, 342. 00 861. 00 8, 488. 00	16, 104, 000 2, 066, 400
日立造船 三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	2, 400 1, 200 1, 200 12, 000 12, 000	861. 00 8, 488. 00	2, 066, 400
三菱重工業 I H I コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	1, 200 1, 200 12, 000 12, 000	8, 488. 00	
IHI コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	1, 200 12, 000 12, 000		10, 185, 600
コニカミノルタ ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12, 000 12, 000	2, 865. 50	
ミネベアミツミ 日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン	12,000		3, 438, 600
日立製作所 三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン		470. 40	5, 644, 800
三菱電機 富士電機 安川電機 ニデック オムロン		2, 826. 00	33, 912, 000
富士電機 安川電機 ニデック オムロン	2, 400	10, 215. 00	24, 516, 000
安川電機 ニデック オムロン	12,000	2, 052. 50	24, 630, 000
ニデック オムロン	2, 400	6, 049. 00	14, 517, 600
オムロン	12,000	5, 612. 00	67, 344, 000
	9,600	5, 789. 00	55, 574, 400
ジーエフ・コアサーコーピューション	12,000	6, 140. 00	73, 680, 000
ンーエス・ユノリ コーホレーンヨン	2, 400	2, 490. 00	5, 976, 000
日本電気	1, 200	8, 263. 00	9, 915, 600
富士通	1, 200	20, 600. 00	24, 720, 000
ルネサスエレクトロニクス	12,000	2, 418. 00	29, 016, 000
セイコーエプソン	24, 000	2, 152. 50	51, 660, 000
パナソニック ホールディングス	12,000	1, 571. 50	18, 858, 000
シャープ	12,000	1, 029. 50	12, 354, 000
ソニーグループ	12,000	12, 930. 00	155, 160, 000
TDK	36,000	6, 505. 00	234, 180, 000
アルプスアルパイン	12,000	1, 212. 00	14, 544, 000
	12,000	2, 799. 00	33, 588, 000
アドバンテスト	96, 000	4, 644. 00	445, 824, 000
キーエンス	1, 200	62, 280. 00	74, 736, 000
レーザーテック	4, 800	31, 060. 00	149, 088, 000
	12,000	1, 252. 50	15, 030, 000
	-	4, 044. 00	242, 640, 000
	60,000	8, 015. 00	192, 360, 000
太陽誘電	60, 000 24, 000	0, 010. 001	

村田制作品	00 000	9 970 00	99 656 000
村田製作所	28, 800	2, 870. 00	82, 656, 000
SCREENホールディングス	4,800	9, 508. 00	45, 638, 400
リコー	18, 000 12, 000	3, 693. 00	66, 474, 000 14, 148, 000
		1, 179. 00	
東京エレクトロン	36, 000	23, 905. 00	860, 580, 000
デンソー	48, 000	2, 462. 00	118, 176, 000
川崎重工業	1, 200	3, 332. 00	3, 998, 400
日産自動車	12, 000	596. 20	7, 154, 400
いすぶ自動車	6, 000	1, 892. 50	11, 355, 000
トヨタ自動車	60, 000	2, 780. 00	166, 800, 000
日野自動車	12, 000	486. 80	5, 841, 600
三菱自動車工業	1, 200	494. 80	593, 760
マツダ	2, 400	1, 678. 00	4, 027, 200
本田技研工業	72, 000	1, 564. 50	112, 644, 000
スズキ	12, 000	6, 124. 00	73, 488, 000
SUBARU	12, 000	2, 673. 50	32, 082, 000
ヤマハ発動機	12, 000	3, 662. 00	43, 944, 000
テルモ	48, 000	4, 772. 00	229, 056, 000
ニコン	12, 000	1, 442. 00	17, 304, 000
オリンパス	48, 000	2, 178. 50	104, 568, 000
НОҮА	6, 000	16, 580. 00	99, 480, 000
シチズン時計	12, 000	864. 00	10, 368, 000
バンダイナムコホールディングス	36, 000	3, 021. 00	108, 756, 000
TOPPANホールディングス	6, 000	3, 296. 00	19, 776, 000
大日本印刷	6, 000	4, 002. 00	24, 012, 000
ヤマハ	12, 000	3, 469. 00	41, 628, 000
任天堂	12, 000	6, 800. 00	81, 600, 000
東京電力ホールディングス	1, 200	665. 90	799, 080
中部電力	1, 200	1, 807. 00	2, 168, 400
関西電力	1, 200	1, 953. 50	2, 344, 200
東京瓦斯	2, 400	3, 285. 00	7, 884, 000
大阪瓦斯	2, 400	2, 876. 00	6, 902, 400
東武鉄道	2, 400	3, 710. 00	8, 904, 000
東急	6, 000	1, 765. 00	10, 590, 000
小田急電鉄	6,000	2, 171. 00	13, 026, 000
京王電鉄	2, 400	4, 105. 00	9, 852, 000
京成電鉄	6,000	6, 220. 00	37, 320, 000
東日本旅客鉄道	1, 200	7, 996. 00	9, 595, 200
西日本旅客鉄道	1, 200	5, 882. 00	7, 058, 400
東海旅客鉄道	6, 000	3, 514. 00	21, 084, 000
ヤマトホールディングス	12,000	2, 589. 50	31, 074, 000

NIPPON EXPRESSホールディングス	1, 200	7, 581. 00	9, 097, 200
日本郵船	3, 600	3, 770. 00	13, 572, 000
商船三井	3,600	3, 883. 00	13, 978, 800
川崎汽船	3,600	4, 784. 00	17, 222, 400
日本航空	12,000	2, 886. 50	34, 638, 000
ANAホールディングス	1, 200	3, 105. 00	3, 726, 000
三菱倉庫	6,000	4, 327. 00	25, 962, 000
ネクソン	24, 000	3, 038. 00	72, 912, 000
メルカリ	12,000	3, 112. 00	37, 344, 000
LINEヤフー	4, 800	428. 00	2, 054, 400
トレンドマイクロ	12,000	7, 259. 00	87, 108, 000
日本電信電話	120,000	173. 50	20, 820, 000
KDDI	72, 000	4, 616. 00	332, 352, 000
ソフトバンク	12, 000	1, 750. 50	21, 006, 000
東宝	1, 200	5, 058. 00	6, 069, 600
NTTデータグループ	60,000	1, 852. 00	111, 120, 000
コナミグループ	12,000	7, 456. 00	89, 472, 000
ソフトバンクグループ	72, 000	6, 160. 00	443, 520, 000
双日	1, 200	3, 049. 00	3, 658, 800
伊藤忠商事	12,000	6, 150. 00	73, 800, 000
丸紅	12,000	2, 339. 00	28, 068, 000
豊田通商	12,000	8, 497. 00	101, 964, 000
三井物産	12,000	5, 551. 00	66, 612, 000
住友商事	12,000	3, 199. 00	38, 388, 000
三菱商事	12,000	7, 059. 00	84, 708, 000
J. フロント リテイリング	6, 000	1, 410. 00	8, 460, 000
三越伊勢丹ホールディングス	12,000	1, 737. 50	20, 850, 000
セブン&アイ・ホールディングス	12,000	5, 663. 00	67, 956, 000
高島屋	6,000	2, 041. 50	12, 249, 000
丸井グループ	12, 000	2, 236. 50	26, 838, 000
イオン	12, 000	3, 080. 00	36, 960, 000
ニトリホールディングス	3, 600	15, 615. 00	56, 214, 000
ファーストリテイリング	36, 000	36, 820. 00	1, 325, 520, 000
しずおかフィナンシャルグループ	12,000	1, 219. 00	14, 628, 000
コンコルディア・フィナンシャルグループ	12,000	686. 50	8, 238, 000
あおぞら銀行	1, 200	3, 047. 00	3, 656, 400
三菱UFJフィナンシャル・グループ	12,000	1, 276. 00	15, 312, 000
りそなホールディングス	1, 200	783. 30	939, 960
三井住友トラスト・ホールディングス	1, 200	5, 366. 00	6, 439, 200
三井住友フィナンシャルグループ	1, 200	7, 466. 00	8, 959, 200
千葉銀行	12, 000	1, 105. 50	13, 266, 000

ふくおかフィナンシャルグループ	2, 400	3, 531. 00	8, 474, 400	
みずほフィナンシャルグループ	1, 200	2, 562. 00	3, 074, 400	
大和証券グループ本社	12,000	975. 50	11, 706, 000	
野村ホールディングス	12,000	618. 50	7, 422, 000	
SOMPOホールディングス	2, 400	6, 507. 00	15, 616, 800	
MS&ADインシュアランスグループホールディングス	3, 600	5, 383. 00	19, 378, 800	
第一生命ホールディングス	1, 200	3, 042. 00	3, 650, 400	
東京海上ホールディングス	18, 000	3, 697. 00	66, 546, 000	
T&Dホールディングス	2, 400	2, 309. 50	5, 542, 800	
クレディセゾン	12,000	2, 352. 00	28, 224, 000	
オリックス	12,000	2, 708. 50	32, 502, 000	
日本取引所グループ	12,000	3, 078. 00	36, 936, 000	
東急不動産ホールディングス	12,000	958. 50	11, 502, 000	
三井不動産	12,000	3, 459. 00	41, 508, 000	
三菱地所	12,000	1, 942. 00	23, 304, 000	
東京建物	6,000	2, 095. 00	12, 570, 000	
住友不動産	12,000	4, 166. 00	49, 992, 000	
エムスリー	28, 800	2, 394. 00	68, 947, 200	
ディー・エヌ・エー	3,600	1, 471. 50	5, 297, 400	
電通グループ	12,000	3, 942. 00	47, 304, 000	
オリエンタルランド	12,000	5, 157. 00	61, 884, 000	
サイバーエージェント	9, 600	819. 70	7, 869, 120	
楽天グループ	12, 000	562.00	6, 744, 000	
リクルートホールディングス	36, 000	5, 118. 00	184, 248, 000	
日本郵政	12, 000	1, 314. 00	15, 768, 000	
セコム	12, 000	10, 600. 00	127, 200, 000	
合計	2, 803, 200		12, 031, 438, 920	

② 株式以外の有価証券 該当事項はありません。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表注記表 (デリバティブ取引等に関する注記) に記載しております。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】2023年11月30日現在

しんきん国内株式インデックス(投資一任用)

I	資産総額	51, 508, 558 円
Π	負債総額	2,701 円
Ш	純資産総額 (I—Ⅱ)	51, 505, 857 円
IV	発行済数量	40, 283, 806 □
V	1口当たり純資産額 (Ⅲ/Ⅳ)	1.2786 円

(参考) しんきん日経平均マザーファンド

I	資産総額	13, 894, 364, 588 円
Π	負債総額	917, 914, 419 円
Ш	純資産総額(I─II)	12, 976, 450, 169 円
IV	発行済数量	6, 036, 585, 830 □
V	1口当たり純資産額(Ⅲ/Ⅳ)	2.1496 円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

- (1) 名義書換えの手続き等 該当事項はありません。
- (2) 受益者名簿 該当事項はありません。
- (3) 受益者に対する特典 該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡

- ① 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ② 上記①の申請のある場合には、上記①の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記①の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に振替法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。
- ③ 上記①の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、振替法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 償還金

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行なわれた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。

(8) 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、 一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によ るほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本の額

200百万円(本書提出日現在)

発行可能株式総数 16,000株

発行済株式総数 4,000株

最近5年間における主な資本の額の増減はありません。

(2) 当社の機構

○会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は就任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結の時までです。ただし、 補欠または増員で選任された取締役の任期は、現任取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、代表取締役を選任し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議に従い業務を執行します。また、取締役会は、その決議をもって、取締役会長1名および取締役社長1名を選定し、 専務取締役および常務取締役若干名を選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役会長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役会長がこれにあたります。

取締役会の決議は、取締役の過半数が出席して、出席取締役の過半数をもって決します。

○投資運用の意思決定機構

- ① 商品企画体制
 - 投資政策委員会

当委員会において、事務局である運用本部運用企画部が情報を収集し、投資環境、運用環境、 販売環境に適合した商品企画案を提出します。また当委員会は、新規設定する商品に関する基本 的な重要事項について協議し、委員長がこれを決定します。

② 運用体制

· 投資政策委員会

当委員会において、経済環境、資産別市場見通しならびに投資環境等を検討し、基本的な運用 方針、運用戦略について協議し、委員長がこれを決定します。また、基本的な投資方針等に基づ いて、ファンド運用についての具体的なガイドライン、方策を審議、決定するとともに、個別銘 柄についての分析を行い、投資対象銘柄を選定します。経営管理部は、各ファンドの運用成績、 ポートフォリオの運用内容等について考査し、当委員会に報告を行います。

・コンプライアンス・運用管理委員会

当委員会において、事務局である経営管理部は、信託財産の運用リスク管理状況ならびに運用 に関する法令・諸規則および諸決定事項の遵守状況等の報告を行います。また、トレーディング 部は、取引先リスク等の報告を行います。

③ コンプライアンス管理体制

取締役会の下で法令等遵守に関する問題を一元管理するため、以下のとおりコンプライアンス管理体制を敷いています。

- ・コンプライアンス・運用管理委員会を設置し、コンプライアンスに関する事項全般について審議 します。
- ・コンプライアンスに関する事項を統括する部門として、コンプライアンス担当部門を設置すると ともに、コンプライアンス関連部門を設置します。
- ・コンプライアンス統括責任者を経営管理部担当役員、コンプライアンス管理責任者を経営管理部長とし、コンプライアンス責任者を各部門長とします。また、各部門におけるコンプライアンスの推進および徹底を実践するため、各部門にコンプライアンス担当者を配置します。
- ・全部門から独立した内部監査部門を設置し、コンプライアンス管理の適切性・有効性を検証・評価します。

※上記の内容は、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である当社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)を行います。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部および投資助言業務を行います。

当社の運用する証券投資信託は、2023年11月30日現在、以下のとおりです。

(親投資信託を除きます。)

(単位:百万円)

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	103	950, 886
単位型公社債投資信託	31	72, 291
単位型株式投資信託	78	156, 469
合計	212	1, 179, 647

(注)純資産総額は百万円未満を切り捨てしています。

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和 38 年大蔵省令第 59 号)、ならびに同規則第 2 条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成 19 年 8 月 6 日内閣府令第 52 号)により作成しております。

中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)ならびに同規則第38条および第57条の規定により「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

- 2. 財務諸表および中間財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 3. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査および中間監査を受けております。

独立監査人の監査報告書

2023年6月14日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

取締役会御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所 指定有限責任社員 業務執行社員

治奇符男

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているしんきんアセットマネジメント投信株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の 基準に準拠して、しんきんアセットマネジメント投信株式会社の2023年3月31日現在の 財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に 表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して 財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽 表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備 及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成する ことが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の 基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する 責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は 誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において 独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬に より発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を 与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を 通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示 リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断に よる。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、 監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、 監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた 会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、 入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は 状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する 重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起 すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、 財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査 報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続 企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の 基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、 構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているか どうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した 内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められている その他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1 財務諸表

(1)【貸借対照表】

(1)【真旧内派衣】		前事業	美年度	当事業	
		(2022年3月	31 日現在)	(2023年3月	31 日現在)
科目	注記番号	金	額	金	額
(資産の部)		千円	千円	千円	千円
流動資産					
現金・預金	*2		7, 486, 067		8, 096, 631
前払費用			27, 313		36, 097
未収入金			1,045		_
未収委託者報酬			572,846		684, 094
未収運用受託報酬	*2		8, 285		8, 342
未収収益			12		13
その他の流動資産			6, 110		5, 263
流動資産計			8, 101, 681		8, 830, 443
固定資産					
有形固定資産	*1		103,051		91, 563
建物		76, 506		68, 621	
器具備品		26, 545		22, 941	
無形固定資産			49,778		43, 991
ソフトウェア		48, 287		42, 579	
電話加入権		959		959	
その他		530		451	
投資その他の資産			44, 398		43, 197
投資有価証券		676		3,724	
長期前払費用		2,074		825	
繰延税金資産		41,646		38, 647	
固定資産計			197, 227		178, 752
資産合計			8, 298, 909		9, 009, 195

		前事業	美年度	当事業	英年度	
		(2022年3月	31 日現在)	(2023年3月	31 日現在)	
科目	注記番号	金額		金	額	
(負債の部)		千円	千円	千円	千円	
流動負債						
未払金			427, 644		486, 155	
未払手数料	*2	353, 955		412, 521		
その他未払金		73,689		73, 634		
未払法人税等			217,075		151,940	
未払消費税等			49, 120		38, 253	
未払事業所税			2, 157		2, 241	
賞与引当金			84, 794		84, 622	
その他の流動負債			4, 125		4, 551	
流動負債計			784, 917		767, 765	
固定負債						
退職給付引当金			141,018		147, 286	
役員退職慰労引当金			28, 302		37, 727	
固定負債計			169, 320		185,013	
負債合計			954, 237		952,779	
(純資産の部)		千円	千円	千円	千円	
株主資本			7, 344, 548		8, 056, 260	
資本金			200,000		200,000	
利益剰余金			7, 144, 548		7, 856, 260	
利益準備金		2,000		2,000		
その他利益剰余金		7, 142, 548		7, 854, 260		
別途積立金		6, 210, 000		6, 990, 000		
繰越利益剰余金		932, 548		864, 260		
評価・換算差額等			122		155	
その他有価証券評価差額金			122		155	
純資産合計			7, 344, 671		8, 056, 416	
負債・純資産合計			8, 298, 909		9, 009, 195	

(2) 【損益計算書】

(2) 【須益司昇音】		計車 3	芝 年 度	当事業	生年度
			前事業年度 自 2021年4月 1日		ミー及 手4月 1日
					丰3月31日
科目	注記 番号	金	額	至 2023 ⁴ 金	額
営業収益	ш	千円	千円	千円	千円
委託者報酬			5, 745, 722		5, 878, 713
運用受託報酬	*1		125, 440		117, 575
営業収益計			5, 871, 163		5, 996, 289
営業費用					
支払手数料	*1		2,827,107		2,900,890
広告宣伝費			38, 844		59, 825
調査費			719, 301		780, 767
調査研究費		494, 049		559, 786	
委託調査費		225, 252		220, 980	
営業雑経費			69, 306		71, 717
印刷費		59, 716		61, 913	
郵便料		151		109	
電信電話料		4, 750		4,834	
協会費		4, 687		4,860	
営業費用計			3, 654, 560		3, 813, 200
一般管理費					
給料			649,835		678, 964
役員報酬		62, 899		62, 899	
給料・手当		427, 106		452, 557	
賞与		66, 091		65, 183	
法定福利費		88, 426		92, 930	
福利厚生費		5, 311		5, 392	
賞与引当金繰入			84, 794		84, 622
退職給付費用			69, 495		75, 930
役員退職慰労引当金繰入			10,947		9, 425
交際費			1,233		2,777
旅費交通費			1,417		6, 235
租税公課			25, 175		24, 607
不動産賃借料			62,794		62, 890
固定資産減価償却費			27, 295		30, 126
諸経費			151, 092		168, 648
一般管理費計			1, 084, 081		1, 144, 227
営業利益			1, 132, 522		1, 038, 861
営業外収益					
受取利息	*1		80		86
その他営業外収益			404		334
営業外収益計			484		421
営業外費用					
投資有価証券償還損			541		_
雑損失			1,357		1,646
営業外費用計			1, 899		1,646
経常利益			1, 131, 106		1,037,636

		前事業年度 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日			芝年度 平4月 1日 年3月31日
科 目	注記 番号	金	額	金	額
		千円	千円	千円	千円
特別損失					
固定資産除却損			6, 910		3, 250
特別損失計			6, 910		3, 250
税引前当期純利益			1, 124, 196		1, 034, 385
法人税、住民税および事業税			355, 435		319, 688
法人税等調整額			\triangle 5, 332		2, 984
当期純利益			774, 094		711, 712

(3)【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	利益準備金	その他利益剰余金		利益	株主資本	
			別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計	合計	
当期首残高	200, 000	2,000	5, 560, 000	808, 454	6, 370, 454	6, 570, 454	
当期変動額							
新株の発行	_	_	_	_		_	
剰余金の配当	_	_	_	_		_	
別途積立金の積立	_	_	650, 000	△650,000		_	
別途積立金の取崩	_	_	_	_		_	
当期純利益	_	_	_	774, 094	774, 094	774, 094	
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	_	_	_	_	_		
当期変動額合計	_	_	650, 000	124, 094	774, 094	774, 094	
当期末残高	200,000	2,000	6, 210, 000	932, 548	7, 144, 548	7, 344, 548	

	評価・推		
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
当期首残高	△156	△156	6, 570, 298
当期変動額			
新株の発行		_	_
剰余金の配当	_		_
別途積立金の積立		_	
別途積立金の取崩		l	
当期純利益			774, 094
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	278	278	278
当期変動額合計	278	278	774, 372
当期末残高	122	122	7, 344, 671

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

			利益剰余金				
	資本金	利益	その他利	その他利益剰余金		株主資本	
		準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計	合計	
当期首残高	200, 000	2,000	6, 210, 000	932, 548	7, 144, 548	7, 344, 548	
当期変動額							
新株の発行					_		
剰余金の配当					_		
別途積立金の積立			780, 000	△780, 000	_		
別途積立金の取崩					_		
当期純利益	_		_	711, 712	711, 712	711, 712	
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	_	_	_	_	_	_	
当期変動額合計	_	_	780, 000	△68, 287	711, 712	711, 712	
当期末残高	200, 000	2,000	6, 990, 000	864, 260	7, 856, 260	8, 056, 260	

	評価・推		
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
当期首残高	122	122	7, 344, 671
当期変動額			
新株の発行	_	_	_
剰余金の配当	_		
別途積立金の積立		l	l
別途積立金の取崩		l	l
当期純利益			711, 712
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	33	33	33
当期変動額合計	33	33	711, 745
当期末残高	155	155	8, 056, 416

当事業年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日 1. 有価証券の評価基準および その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 評価方法 投資信託は、当事業年度末日の市場価格等に基づく時 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原 価は移動平均法により算定) (1)有形固定資産 2. 固定資産の減価償却の方法 定額法を採用しております。 主な耐用年数は以下のとおりです。 物 3年 ~ 50年 器具備品 3年 ~ 20年 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内におけ る利用可能期間(5年)に基づいております。 3. 引当金の計上基準 (1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給 見込額に基づき計上しております。 (2)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における 退職給付債務を計上しております。 なお、退職給付引当金の対象従業員が300名未満であるた め、簡便法によっており、退職給付債務の金額は当事業年 度末における自己都合要支給額としております。 (3)役員退職慰労引当金 当社常勤役員の退職慰労金の支給に充てるため、「常勤 役員退職慰労金規程」に基づく当事業年度末要支給額を計 上しております。 4. 収益および費用の計上基準 当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報 酬を稼得しております。 (1)委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資 産総額に対する一定割合として認識され、当該報酬は期間 の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づ き、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しており ます。 (2) 運用受託報酬 運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資

ます。

産総額等に対する一定割合として認識され、当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しており

	当事業年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっ ております。 なお、仮払消費税等および仮受消費税等は相殺のうえ、 未払消費税等として表示しております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31 号 2021 年6 月 17 日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2 項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

これによる当財務諸表への影響はありません。

なお、「金融商品関係」注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準適用指針第 27-3 項に従って、前事業年度に係るものについては記載しておりません。

注記事項

(貸借対照表関係)

*1 有形固定資産の減価償却累計額

.1. 1	日ル四	人 貞 庄 v i i i i i i i i i i i i i i i i i i	
_		前事業年度	当事業年度
		(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
建	物	76,762 千円	81,193 千円
器	具備品	39,961 千円	41,919 千円

* 2 関係会社項目

関係会社に対する資産および負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度	当事業年度
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
普通預金	6,300,936 千円	6,939,485 千円
定期預金	1,000,000 千円	1,000,000 千円
未収運用受託報酬	3,150 千円	2,252 千円
未払手数料	169, 395 千円	195,316 千円

(損益計算書関係)

*1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

T BNARCON TICK 5 60%			
	前事業年度		当事業年度
	自 2021年4月 1日		2022年4月 1日
	至 2022年3月31日	至	2023年3月31日
運用受託報酬	116,149 千円		103,058 千円
受取利息	77 千円		84 千円
支払手数料	2,271,960 千円		2,285,492 千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式および総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	4	_	_	4
計	4	_	_	4

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式および総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	4			4
計	4	_	_	4

(リース取引関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日) 該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資産運用については短期的な預金等に限定しており、投機的な取引は行なわない方針であります。

当社は投資運用業を営んでおり、投資家のニーズに対応した投資信託を適時適切に設定することを目的として、当社が運用を行う投資信託を直接保有しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

投資有価証券は、投資信託であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

投資信託については、時価の動向を定期的に把握して経営に報告しております。

また、投資信託に係るリスクに関しては、取締役会において1銘柄当たりの取得金額および取得金額の合計額に係る上限金額を設定しており、リスクは極めて限定的であると認識しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2022 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払手数料、その他未払金、 未払法人税等、未払消費税等、未払事業所税は、短期間で決済されるため時価は帳簿価額 にほぼ等しいことから、記載を省略しております。

(単位:千円)

			<u> </u>
	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	676	676	_
合計	676	676	_

(注1) 金融商品の時価の算定方法

投資有価証券:投資信託は、基準価額によっております。

(注2) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	1年以内	1年超
(1) 預金	7, 485, 714	7, 485, 714	_
(2) 未収委託者報酬	572, 846	572,846	_
(3) 未収運用受託報酬	8, 285	8, 285	_
合計	8, 066, 845	8, 066, 845	_

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

資産運用については短期的な預金等に限定しており、投機的な取引は行なわない方針であります。

当社は投資運用業を営んでおり、投資家のニーズに対応した投資信託を適時適切に設定することを目的として、当社が運用を行う投資信託を直接保有しております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

投資有価証券は、投資信託であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

投資信託については、時価の動向を定期的に把握して経営に報告しております。

また、投資信託に係るリスクに関しては、取締役会において1銘柄当たりの取得金額および取得金額の合計額に係る上限金額を設定しており、リスクは極めて限定的であると認識しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023 年 3 月 31 日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払手数料、その他未払金、 未払法人税等、未払消費税等、未払事業所税は、短期間で決済されるため時価は帳簿価額 にほぼ等しいことから、記載を省略しております。

(単位:千円)

			(= !
	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	3,724	3,724	_
合計	3,724	3,724	_

(注 1) 上記表中の投資有価証券の貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、 全額投資信託に関するものであります。

(注2) 金銭債権および満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	1年以内	1年超
(1) 預金	8, 096, 294	8, 096, 294	_
(2) 未収委託者報酬	684, 094	684, 094	_
(3) 未収運用受託報酬	8, 342	8, 342	_
合計	8, 788, 731	8, 788, 731	_

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性および重要性に応じて、 以下の3つのレベルに分けて分類しております。

レベル 1 の時価:観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において

形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場

価格により算定した価格

レベル 2 の時価:観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル 1 のインプット以外

の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価:観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

当事業年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	_	3, 724	_	3, 724
合計	_	3, 724	_	3, 724

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当事業年度(2023年3月31日)

該当事項はありません。

(注) 時価の算定に用いた評価技法および時価の算定に係るインプットの説明 投資有価証券

投資信託は、市場における取引価格が存在せず、かつ、解約または買戻請求に関して 市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないため、公表されてい る基準価額を時価としており、レベル2に分類しております。

なお、保有目的毎の有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に 記載しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が			
取得原価を超えるもの			
投資信託	676	500	176
小計	676	500	176
貸借対照表計上額が			
取得原価を超えないもの			
投資信託	_	_	-
小計		_	_
合計	676	500	176

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が			
取得原価を超えるもの			
投資信託	2, 729	2,500	229
小計	2, 729	2,500	229
貸借対照表計上額が			
取得原価を超えないもの			
投資信託	994	1,000	$\triangle 5$
小計	994	1,000	$\triangle 5$
合計	3,724	3, 500	224

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日) 該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) 該当事項はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日) 該当事項はありません。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報 前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	前事業年度	
	自 2021年4月 1日	
	至 2022年3月31日	
委託者報酬	5, 745, 722	
運用受託報酬	125, 440	
合計	5, 871, 163	

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	当事業年度	
	自 2022年4月 1日	
	至 2023年3月31日	
委託者報酬	5, 878, 713	
運用受託報酬	117, 575	
合計	5, 996, 289	

- 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報 [重要な会計方針]4. 収益および費用の計上基準に記載のとおりであります。
- 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係ならびに当事業年度において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額および時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度と厚生年金基金制度を併用しております。当社が有する退職一時金制度については、簡便法により退職給付引当金および 退職給付費用を計算しております。

また、当社が加入する厚生年金基金制度は、複数事業主制度の厚生年金基金制度であり、当社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金制度への拠出額を退職給付費用として計上しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
	千円	千円
退職給付引当金の期首残高	120, 397	141,018
退職給付費用	20, 620	18, 504
退職給付の支払額	_	\triangle 12, 235
制度への拠出額		
退職給付引当金の期末残高	141, 018	147, 286

(2) 退職給付債務および年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金および前払年金費用の調整表

	前事業年度	当事業年度
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
	千円	千円
非積立型制度の退職給付債務	141,018	147, 286
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	141,018	147, 286
退職給付引当金	141,018	147, 286
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	141,018	147, 286

(3) 退職給付費用

	前事業年度	当事業年度
	自 2021年4月 1日	自 2022年4月 1日
	至 2022年3月31日	至 2023年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	千円	千円
面及四年 5 亿亿层两个15 万万	20,620	18, 504

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前事業年度 46,591 千円、当事業年度 48,840 千円であります。

		前事業年度	当事業年度
		自 2021年4月 1日	自 2022年4月 1日
		至 2022年3月31日	至 2023年3月31日
(1)	直近の積立状況に関する事項	(2021年3月31日現在)	(2022年3月31日現在)
		千円	千円
	年金資産の額	1, 732, 930, 232	1, 740, 569, 136
	年金財政計算上の数理債務の額と	1, 817, 887, 929	1, 807, 426, 438
	最低責任準備金の額との合計額		
	差引額	\triangle 84, 957, 696	\triangle 66, 857, 301
(2)	掛金に占める当社の拠出割合	(2021年3月分)	(2022年3月分)
		0.0950%	0.1000%
(3)	補足説明	上記(1)の差引額の主	上記(1)の差引額の主
		な要因は、年金財政計算上	な要因は、年金財政計算上
		の過去の勤務債務残高	の過去の勤務債務残高
		178,469,134 千円および年	162,618,026 千円および年
		金財政計算上の別途積立金	金財政計算上の別途積立金
		93,511,437 千円でありま	95,760,724 千円でありま
		す。	す。
		本制度における過去勤務	本制度における過去勤務
		債務の償却方法は、期間 19	債務の償却方法は、期間 19
		年0か月の元利均等定率償	年0か月の元利均等定率償
		却であります。	却であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度	当事業年度
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
繰延税金資産	千円	千円
賞与引当金繰入限度超過額	25, 963	25, 911
役員退職慰労引当金	8, 666	11, 552
退職給付引当金繰入限度超過額	43, 179	45, 099
未払事業税	11, 209	8, 233
未払事業所税	660	686
その他	3, 866	3,884
繰延税金資産 小計	93, 546	95, 367
評価性引当額	△51,845	△ 56, 651
繰延税金資産 合計	41, 700	38, 715
繰延税金負債	千円	千円
その他有価証券評価差額金	$\triangle 54$	△68
繰延税金負債 合計	$\triangle 54$	△68
繰延税金資産の純額	41,646	38, 647

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の 100 分の 5 以下であるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、 製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

①売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、 地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

②有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超える ため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称または氏名	営業収益
信金中央金庫	116, 149

なお、営業収益の金額は、運用受託報酬について表示しております。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、 製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

①売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、 地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

②有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超える ため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
顧客の名称または氏名	営業収益
信金中央金庫	103, 058

なお、営業収益の金額は、運用受託報酬について表示しております。

(関連当事者情報)

前事業年度(自 2021年4月1日至 2022年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)親会社および法人主要株主等

			次十八		議決権等の	関	係内容				
種類	会社等 の名称	住所	資本金 または 出資金	事業の 内容	所有(被所有)割合	役員 の兼 務等	事業上の 関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	信金中央金庫	東京都中央区	690, 998 百万円	信用金 庫連合 会事業	直接 (被所有) 100%	兼任 1 人	証券投資 信託受益 証券の募 集販売	投資信託 の代行手 数料	2, 271, 960 千円	未払 手数料	169, 395 千円
								運用受託 報酬	116, 149 千円		
								出向者 人件費	48, 246 千円		
								事務所 賃借料	49, 958 千円		

(2) 兄弟会社等

			次→△		送油を炊の	関	係内容				
種類	会社等 の名称	住所	資本金 または 出資金	事業の 内容	議決権等の 所有(被所 有)割合	役員 の兼 務等	事業上の 関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社 の子会 社	しんきん 証券株式 会社	東京都中央区	20,000 百万円			なし	証券投資 信託受益 証券の募 集販売	投資信託 の代行手 数料	520, 398 千円	未払 手数料	108, 687 千円

- (注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 - 2. 取引条件および取引条件の決定方針等

信託約款に定める受益者の負担する信託報酬のうち、委託者報酬分の配分を両者協議のうえ合理的に決定しております。

また、上記の他預金取引がありますが、取引条件が一般の取引と同等であることが明白な取引である ため記載しておりません。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

信金中央金庫(東京証券取引所に上場)

当事業年度(自 2022年4月1日至 2023年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)親会社および法人主要株主等

		1			1						
			資本金		議決権等の	関	係内容				
種類	会社等 の名称	住所	または出資金	事業の 内容	所有(被所有)割合	役員 の兼 務等	事業上の 関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	信金中央金庫	東京都中央区	690, 998 百万円	信用金 庫連合 会事業	直接 (被所有) 100%	兼任 1 人	証券投資 信託受益 証券の募 集販売	投資信託 の代行手 数料	2, 285, 492 千円	未払 手数料	195, 316 千円
							7,7,0,7 =	運用受託 報酬	103, 058 千円		
								出向者 人件費	49, 336 千円		
								事務所賃借料	49, 958 千円		

(2) 兄弟会社等

			次→△		送油を炊の	関	係内容				
種類	会社等 の名称	住所	資本金 または 出資金	事業の 内容	議決権等の 所有(被所 有)割合	役員 の兼 務等	事業上の 関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社 の子会 社	しんきん 証券株式 会社	東京都中央区	20,000 百万円		_	なし	証券投資 信託受益 証券の募 集販売	投資信託 の代行手 数料	585, 259 千円	未払 手数料	137, 270 千円

- (注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 - 2. 取引条件および取引条件の決定方針等

信託約款に定める受益者の負担する信託報酬のうち、委託者報酬分の配分を両者協議のうえ合理的に決定しております。

また、上記の他預金取引がありますが、取引条件が一般の取引と同等であることが明白な取引であるため記載しておりません。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

信金中央金庫(東京証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前事業年度 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	当事業年度 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
1株当たり純資産額	1,836,167円82銭	2,014,104円10銭
1株当たり当期純利益金額	193, 523 円 54 銭	177,928 円 2 銭

- (注)1. 潜在株式調整後1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
 - 2.1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日	自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日
当期純利益金額	774, 094 千円	711,712 千円
普通株主に帰属しない金額	—千円	一千円
普通株式に係る当期純利益金額	774,094 千円	711,712 千円
期中平均株式数	4,000 株	4,000 株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月15日

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監查法人

東 京 事 務 所 指定有限責任社員 業務執行社員

岩崎铅男

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているしんきんアセットマネジメント投信株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第34期事業年度の中間会計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間 財務諸表の作成基準に準拠して、しんきんアセットマネジメント投信株式会社の2023年 9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間(2023年4月1日から 2023年9月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に 準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬に よる重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が 必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を 作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる 中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には 当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間 監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施 する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、 重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択 及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な 監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、 監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に 基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び 適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものでは ないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案する ために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の 見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間 財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間 財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関 して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で 識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で 求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

2 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

当中間会		
2023 年 9	T	
科 目	金	額
	千円	千円
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		8, 399, 243
前払費用		65, 997
未収委託者報酬		687, 756
未収運用受託報酬		11, 847
その他の流動資産		4, 339
流動資産計		9, 169, 184
固定資産		
有形固定資産 *1		100, 103
建物	66, 477	
器具備品	33, 625	
無形固定資産		37, 556
ソフトウェア	36, 183	
電話加入権	959	
その他	412	
投資その他の資産		39, 720
投資有価証券	3, 827	
長期前払費用	1, 405	
繰延税金資産	34, 487	
固定資産計		177, 379
資産合計		9, 346, 564

当中間会計期間末 2023年9月30日 科 目 金 額 千円 千円 (負債の部) 流動負債 未払金 517, 052 未払手数料 426, 441 その他未払金 90,610 未払法人税等 139, 057 未払消費税等 33, 051 未払事業所税 1,206 前受収益 35, 433 賞与引当金 74, 541 その他の流動負債 4,956 流動負債計 805, 299 固定負債 退職給付引当金 147, 108 役員退職慰労引当金 12,718 固定負債計 159,826 負債合計 965, 126 (純資産の部) 株主資本 8, 381, 210 資本金 200,000 利益剰余金 8, 181, 210 利益準備金 2,000 その他利益剰余金 8, 179, 210 別途積立金 7,700,000 繰越利益剰余金 479, 210 評価 • 換算差額等 227 その他有価証券評価差額金 227 純資産合計 8, 381, 438 9, 346, 564 負債・純資産合計

(2) 中間損益計算書

当中間:	会計期間
	丰4月1日
至 2023 4	平 9 月 30 日
科目	金額
	千円 千円
営業収益	
委託者報酬	2, 930, 152
運用受託報酬	55, 588
営業収益計	2, 985, 741
営業費用	1 110 105
支払手数料	1, 442, 465
広告宣伝費	16, 910
調査費	423, 701
調査研究費 委託調査費	297, 436
安武嗣宜貝 営業雑経費	126, 264 35, 950
日本	30, 767
郵便料	61
電信電話料	2, 589
協会費	2, 532
プログラップ 対案費用計	1, 919, 027
一般管理費	1, 919, 021
給料	341, 411
役員報酬	31, 717
給料·手当	250, 070
賞与	1, 667
法定福利費	55, 115
福利厚生費	2, 840
賞与引当金繰入	74, 459
退職給付費用	40, 315
役員退職慰労引当金繰入	7, 224
交際費	2, 087
旅費交通費	4, 416
租税公課	12, 265
不動産賃借料	31,610
固定資産減価償却費 *1	13, 527
諸経費	80, 897
一般管理費計	608, 215
営業利益	458, 498
営業外収益	
受取利息	45
その他営業外収益	273
営業外収益計	319
営業外費用	
雑損失	600
営業外費用計	600
経常利益	458, 216

		4月1日		
	至 2023 年	9月30日		
科目			金	額
			千円	千円
税引前中間純利益				458, 216
法人税、住民税および事業税				129, 139
法人税等調整額				4, 127
中間純利益				324, 950

(3)中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

			資本		12. 1 1 1 7 /	
	資本金	利益	その他利	益剰余金	利益	株主資本 合計
		準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	剰余金 合計	
当期首残高	200, 000	2,000	6, 990, 000	864, 260	7, 856, 260	8, 056, 260
当中間期変動額						
新株の発行						
剰余金の配当	_	_	_	_	_	_
別途積立金の積立	-	_	710, 000	△710,000	-	
別途積立金の取崩	-	_	_	-	-	
中間純利益	_	_	_	324, 950	324, 950	324, 950
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	_	_	_	_	_	_
当中間期変動額合計	_	_	710, 000	△385, 049	324, 950	324, 950
当中間期末残高	200, 000	2,000	7, 700, 000	479, 210	8, 181, 210	8, 381, 210

	評価・換	算差額等	
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	純資産合計
当期首残高	155	155	8, 056, 416
当中間期変動額			
新株の発行	_	_	_
剰余金の配当	_	_	_
別途積立金の積立		_	
別途積立金の取崩	_	_	_
中間純利益	_	_	324, 950
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	71	71	71
当中間期変動額合計	71	71	325, 021
当中間期末残高	227	227	8, 381, 438

当中間会計期間 自 2023年4月1日 項 目 至 2023年9月30日 1. 有価証券の評価基準および評 その他有価証券 価方法 市場価格のない株式等以外のもの 投資信託は、中間会計期間末日の市場価格等に基づ く時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価 は移動平均法により算定) 2. 固定資産の減価償却の方法 (1)有形固定資産 定額法を採用しております。 主な耐用年数は以下のとおりです。 建 物 3 年~50 年 器具備品 3年~20年 (2)無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内にお ける利用可能期間(5年)に基づいております。 3. 引当金の計上基準 (1)賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支 給見込額に基づき計上しております。 (2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末に おける退職給付債務を計上しております。 なお、退職給付引当金の対象従業員が300名未満であ るため、簡便法によっており、退職給付債務の金額は当 中間会計期間末における自己都合要支給額としており ます。 (3)役員退職慰労引当金 当社常勤役員の退職慰労金の支給に充てるため、「常 勤役員退職慰労金規程」に基づく当中間会計期間末要支 給額を計上しております。 4. 収益および費用の計上基準 当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託 報酬を稼得しております。 (1)委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純 資産総額に対する一定割合として認識され、当該報酬は 期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提 に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識 しております。 (2) 運用受託報酬 運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純 資産総額等に対する一定割合として認識され、当該報酬 は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前 提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認

識しております。

項目	当中間会計期間 自 2023 年 4 月 1 日 至 2023 年 9 月 30 日
5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。 なお、仮払消費税等および仮受消費税等は相殺のうえ、未払消費税等として表示しております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

項目		当中間会計期間末 2023 年 9 月 30 日	
* 1	有形固定資産の減価償却累計額	建物	83,554 千円
		器具備品	44, 408 千円

(中間損益計算書関係)

	当中間会計期間		
項目	自 2023年4月1日		
	至 2023年9月30日		
* 1 減価償却実施額	有形固定資産 7,092 千円		
	無形固定資產 6,435 千円		

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(千株)	4	_	_	4
計	4	_	_	4

(金融商品関係)

当中間会計期間末(2023年9月30日)

1. 金融商品の時価等に関する事項

2023年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りであります。

なお、現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払手数料、その他未払金、未払法 人税等、未払消費税等、未払事業所税は、短期間で決済されるため時価は帳簿価額にほぼ等しい ことから、記載を省略しております。

(単位:千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券	3, 827	3, 827	
合計	3, 827	3, 827	_

(注) 上記表中の投資有価証券の中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は、 全額投資信託に関するものであります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性および重要性に応じて、以下の3つのレベルに分けて分類しております。

レベル1の時価:観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成

される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格によ

り算定した価格

レベル2の時価:観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時

価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価:観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

(単位:千円)

ロハ	時価			
区分	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	_	3, 827	_	3, 827
合計	_	3, 827	_	3, 827

(2) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品 該当事項はありません。

(注) 時価の算定に用いた評価技法および時価の算定に係るインプットの説明 投資有価証券

投資信託は、市場における取引価格が存在せず、かつ、解約または買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないため、公表されている基準価額を時価としており、レベル2に分類しております。

なお、保有目的毎の有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

(有価証券関係)

その他有価証券

当中間会計期間末(2023年9月30日)

(単位:千円)

区分	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
投資信託	2, 469	2,000	469
小計	2, 469	2,000	469
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
投資信託	1, 357	1,500	$\triangle 142$
小計	1, 357	1,500	△142
合計	3, 827	3, 500	327

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

1. 顧各との失利がり生しる収益を分辨した情報			
当中間会計期間			
	自 2023年4月1日		
	至 2023年9月30日		
委託者報酬	2,930,152 千円		
運用受託報酬	55,588 千円		
合計	2,985,741 千円		

- 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報 [重要な会計方針]4 収益および費用の計上基準に記載のとおりであります。
- 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係ならびに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額および時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. セグメント情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

①売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の 90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

②有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の 90% を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(単位:千円)

(3) 主要な顧客ごとの情報

(0) 工文 6/6 一 C C 7 旧 代	
顧客の名称または氏名	営業収益
信金中央金庫	55, 588

なお、営業収益の金額は、運用受託報酬について表示しております。

(1株当たり情報)

当中間会計期間 自 2023年4月1日

至 2023年9月30日

1株当たり純資産額

2,095,359 円 50 銭

1株当たり中間純利益

81,237円56銭

潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注)算定上の基礎

1株当たり中間純利益

中間純利益 324,950 千円

普通株主に帰属しない金額 - 千円

普通株式に係る中間純利益 324,950 千円

期中平均株式数 4,000 株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (3) 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(1)から(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

- (1) 定款の変更
 - 2023年6月20日付で、取締役会長を新たに選定する定款の変更を行いました。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

追加型証券投資信託

しんきん国内株式インデックス(投資一任用)

約 款

運用の基本方針

約款第18条の規定に基づき、委託者の定める方針は次のものとします。

1. 基本方針

この投資信託は、日経平均株価(以下「日経225」といいます。)に連動する投資成果を目指して運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

「しんきん日経平均マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。) の受益証券を 主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することがあります。

(2) 投資態度

- ① 主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、日経225の動きに連動する投資 成果を目指して運用を行います。
- ② マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ③ 運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。
- ④ 株式以外の資産への実質投資割合は、原則として、信託財産総額の50%以下とします。
- ⑤ 市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 株式への実質投資割合には、制限を設けません。
- ② 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の 10%以下とします。
- ③ 投資信託証券(マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産 総額の5%以下とします。
- ⑤ 外貨建資産への投資は行いません。

3. 収益分配方針

年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

- ① 分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益を含みます。) 等の全額とします。
- ② 分配金額は、委託者が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。
- ③ 留保益は、上記「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用します。

追加型証券投資信託

しんきん国内株式インデックス(投資一任用) 約款

(信託の種類、委託者および受託者)

- **第1条** この信託は、証券投資信託であり、しんきんアセットマネジメント投信株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。
- **2** この信託は、信託法(平成18年法律第108号)(以下「信託法」といいます。)の適用を受けます。 (信託事務の委託)
- 第2条 受託者は、信託法第28条第1号に基づく信託事務の委託として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関(受託者の利害関係人(金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第2条第1項にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下本条、第17条第1項、同条第2項および第29条において同じ。)を含みます。)と信託契約を締結し、これを委託することができます。
- **2** 前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的、金額および追加信託の限度額)

- **第3条** 委託者は、金100,000 円を受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き 受けます。
- 2 委託者は、受託者と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- 3 委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第46条第1項、第47条第1項、第48条第1項お よび第50条第2項の規定による信託終了の日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)

第5条 この信託に係る受益権の取得申込の勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第6条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者 とし、第7条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属し ます。

(受益権の分割および再分割)

- 第7条 委託者は、第3条第1項の規定による受益権については、100,000口に均等に分割します。 また、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数 に、それぞれ均等に分割します。
- 2 委託者は、受託者と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律(以下「振替法」といいます。) に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

- **第8条** 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に、当該追加信託に係る受益権の口数を乗じた額とします。
- 2 この約款において、基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券および第

28条に規定する借入有価証券を除きます。)を法令または一部償却原価法および一般社団法人投資 信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下 「純資産総額」といいます。)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)

- 第10条 この信託の全ての受益権は、振替法の規定の適用を受けることとし、受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(振替法第2条に規定する「振替機関」をいい、以下「振替機関」といいます。) および当該振替機関の下位の口座管理機関(振替法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。) の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。)。
- 2 委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が振替法の規定により主務大臣の指定を取り 消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者 が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を 発行しません。なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を 除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益 証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。
- 3 委託者は、第7条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな 記載または記録をするため振替法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機 関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、振替法の規定に従い、その備える振替口座 簿への新たな記載または記録を行います。

(受益権の設定に係る受託者の通知)

第11条 受託者は、信託契約締結日に生じた受益権については信託契約締結時に、追加信託により 生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に 係る信託を設定した旨の通知を行います。

(受益権の申込単位および価額)

- 第 12 条 委託者の指定する第一種金融商品取引業者(金融商品取引法第 28 条第 1 項に規定する第一種金融商品取引業を行う者をいいます。以下同じ。)および登録金融機関(金融商品取引法第 2 条第 11 項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。)(以下、総称して「指定販売会社」といいます。)は、第 7 条第 1 項の規定により分割された受益権を、その取得申込者に対し、最低単位を 1 円単位または 1 口単位として指定販売会社が定める申込単位をもって取得の申込みに応じるものとします。ただし、別に定める分配金再投資に関する契約(以下「別に定める契約」といいます。)を結んだ受益権の取得申込者に対しては、1 口の整数倍をもって取得の申込みに応じることができるものとします。
- 2 前項の取得申込者は、指定販売会社に、取得の申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために 開設されたこの信託の受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に 当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、指定販売会社は、当該 取得申込の代金(第3項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)の支 払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことが できます。

- 3 第1項の受益権の価額は、取得申込日の基準価額に手数料ならびに当該手数料に係る消費税および地方消費税(以下「消費税等」といいます。)に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得の申込みに係る受益権の価額は、1口1円に手数料および当該手数料に係る消費税等に相当する金額を加算した価額とします。
- 4 前項の手数料の額は、指定販売会社が定めるものとします。
- 5 受益者が、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として、第36条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。
- 6 前各項の規定にかかわらず、委託者は、金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、単に「取引所」ということがあります。)等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情がある時は、受益権の取得申込みの受付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込みの受付けを取消すことができます。

(受益権の譲渡に係る記載または記録)

- **第13条** 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益 権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- 2 前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の 口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載ま たは記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合 には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みま す。)に振替法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行わ れるよう通知するものとします。
- 3 委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載また は記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異 なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したとき は、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(受益権の譲渡の対抗要件)

第14条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(投資の対象とする資産の種類)

- **第15条** この信託において投資の対象とする資産(本邦通貨表示のものに限ります。)の種類は、次に掲げるものとします。
 - (1)次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で 定めるものをいいます。以下同じ。)
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引に係る権利 (金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、 約款第22条、第23条および第24条に定めるものに限ります。)
 - ハ. 約東手形
 - 二. 金銭債権
 - (2)次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 為替手形

(有価証券および金融商品の指図範囲等)

- 第16条 委託者は、信託金を、主として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された「しんきん日経平均マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券のほか、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除き、かつ本邦通貨表示のものに限ります。)に投資することを指図します。
 - (1)株券または新株引受権証書
 - (2)国債証券
 - (3)地方債証券
 - (4)特別の法律により法人の発行する債券
 - (5)社債券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券を除きます。)
 - (6)資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
 - (7)特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で 定めるものをいいます。)
 - (8)協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
 - (9)資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券 (金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
 - (10) コマーシャル・ペーパー
 - (11) 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。) および新株予約権証券
 - (12) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
 - (13) 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
 - (14)投資証券、新投資口予約権証券、投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第 1項第11号で定めるものをいいます。)
 - (15) 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
 - (16)オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
 - (17)受益証券発行信託の受益証券 (金融商品取引法第2条第1項第 14 号で定めるものをいいます。)
 - (18)預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
 - (19) 外国法人が発行する譲渡性預金証書
 - (20) 外国の者に対する権利で、貸付債権信託受益権であって第 17 号の有価証券に表示されるべき 権利の性質を有するもの
 - (21) 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
 - なお、(1)の証券または証書ならびに(12)および(18)の証券または証書のうち(1)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、(2)から(6)までの証券ならび

- に(12)および(18)の証券または証書のうち(2)から(6)までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、(13)および(14)の証券(新投資口予約権証券および投資法人債券を除きます。)を以下「投資信託証券」といいます。
- 2 委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することの指図を行うことができます。
 - (1)預金
 - (2)指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第 14 号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
 - (3)コール・ローン
 - (4) 手形割引市場において売買される手形
 - (5)貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
 - (6)外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの
- 3 第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときには、委託者は、信託金を、前項に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。
- 4 委託者は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドに属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- 5 委託者は、信託財産に属する投資信託証券(マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券 を除きます。)の時価総額とマザーファンドに属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に 属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の 100 分の5を超えることとなる投資 の指図をしません。
- 6 前2項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(利害関係人等との取引等)

- 第17条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託 及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産 と、受託者(第三者との間において信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当 該第三者の代理人となって行うものを含みます。)および受託者の利害関係人、第29条第1項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第15条、第16条第1項および第2項に掲げる資産への投資等ならびに第21条から第24条まで、第27条、第28条、第32条および第33条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことができます。
- 2 受託者は、受託者がこの信託の受託者としての権限に基づいて信託事務の処理として行うことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行うことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。
- 3 委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等(金融商品取引法第31条の4第3項および同条第4項に規定する親法人等または子法人等をいいます。)また

は委託者が運用の指図を行う他の信託財産との間で、第 15 条、第 16 条第 1 項および第 2 項に掲げる資産への投資等ならびに第 21 条から第 24 条まで、第 27 条、第 28 条、第 32 条および第 33 条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行うことができます。

4 前3項の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第31条第3項および同法第32 条第3項の通知は行いません。

(運用の基本方針)

第 18 条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針に従って、その指図 を行います。

(投資する株式等の範囲)

- 第19条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商 品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場に おいて取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者 割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありま せん。
- 2 前項の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権 証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投 資することを指図することができるものとします。

(同一銘柄の新株引受権証券等への投資制限)

- 第20条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- 2 前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券 の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株 予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(信用取引の指図範囲)

- **第21条** 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けること の指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しに より行うことの指図をできるものとします。
- 2 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
 - (1)信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
 - (2)株式分割により取得する株券
 - (3)有償増資により取得する株券
 - (4)売出しにより取得する株券
 - (5)信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(転換社債型新株予約権付社債の新 株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券
 - (6)信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権(前号に定めるものを除きます。)の行使により取得可能な株券

(先物取引等の運用指図)

- 第22条 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。) および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。) ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取り扱うものとします(以下同じ。)。
- 2 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所における金利に係るこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

(スワップ取引の運用指図・目的・範囲)

- **第23条** 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- 2 スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- 3 スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下、本項において「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。)が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4 前項においてマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産 に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額にマ ザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時 価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- 5 スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- **6** 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(金利先渡取引の運用指図・目的・範囲)

- **第24条** 委託者は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引を行う ことの指図をすることができます。
- 2 金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として第4条に定める信託期間 を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについて はこの限りではありません。
- 3 金利先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産に係る金利先渡取引の想定元本の総額が、信託 財産に係る保有金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由 により、上記保有金利商品の時価総額の合計額が減少して、金利先渡取引の想定元本が保有金利商

品の時価総額を超えることとなった場合には、委託者は、速やかにその超える額に相当する金利先 渡取引の一部の解約を指図するものとします。

- 4 金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で行うものとします。
- **5** 委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- 6 本条において「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日(以下「決済日」といいます。)における決済日から一定の期間を経過した日(以下「満期日」といいます。)までの期間に係る国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率(以下「指標利率」といいます。)の数値を取り決め、その取り決めに係る数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

(信用リスク集中回避のための投資制限)

第25条 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則に従い、当該比率以内になるよう調整を行うこととします。

(デリバティブ取引等に係る投資制限)

第26条 デリバティブ取引等(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定める デリバティブ取引をいいます。)について、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、 合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないものとします。

(有価証券の貸付の指図および範囲)

- **第27条** 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を、 次の各号の範囲内で貸付けることの指図をすることができます。
- (1)株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
- (2) 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する 公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- 2 前項各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- **3** 委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものと します。

(有価証券の借入れ)

- **第28条** 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認められるときには、 担保の提供の指図をするものとします。
- 2 前項の指図は、当該借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- **3** 信託財産の一部解約等の事由により、前項の借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産の純 資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた

有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。

4 第1項の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

(信託業務の委託等)

- 第29条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準の全てに適合するもの(受託者の利害関係人を含みます。)を委託先として選定します。
 - (1)委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
 - (2)委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
 - (3)委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行う体制が整備されていること
 - (4) 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること
- **2** 受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。
- **3** 前2項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。)に委託することができるものとします。
 - (1)信託財産の保存に係る業務
 - (2)信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
 - (3)委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
 - (4)受託者が行う業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

(混蔵寄託)

第30条 金融機関または第一種金融商品取引業者(第一種金融商品取引業を行う者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本条において同じ。)から、売買代金および償還金等について、円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者の名義で混蔵寄託できるものとします。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

- **第31条** 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。
- 2 前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、 速やかに登記または登録をするものとします。
- 3 信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。
- **4** 動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

(一部解約の請求、有価証券の売却および再投資の指図)

- 第32条 委託者は、信託財産に属するマザーファンドの受益証券に係る信託契約の一部解約、有価 証券の売却等の指図ができます。
- 2 委託者は、前項の規定によるマザーファンドの受益証券の一部解約金、有価証券の売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

- 第33条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う 支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。) を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図を行うことができます。 なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2 前項の資金借入額は、次の各号に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。
 - (1)一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却等による受取りの確定している資金の額の範囲内
 - (2)一部解約金支払日の前営業日において確定した当該支払日における当該支払資金の不足額の 範囲内
 - (3)借入指図を行う日における、信託財産の純資産総額の10%以内
- 3 第1項の借入期間は、有価証券等の売却等の代金の入金日までに限るものとします。
- 4 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第34条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属 します。

(受託者による資金の立替え)

- **第35条** 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、 委託者の申し出があるときは、受託者は資金の立て替えをすることができます。
- 2 信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式 の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積り得るものがあるときは、 受託者がこれを立て替えて信託財産に繰り入れることができます。
- **3** 前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議により、そのつど別に これを定めます。

(信託の計算期間)

- **第36条** この信託の計算期間は、原則として毎年11月21日から翌年11月20日までとします。ただし、第1計算期間は信託契約締結日から2022年11月21日までとします。
- 2 前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第4条に定める信託期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告等)

- 第37条 受託者は、毎計算期間末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを 委託者に提出します。
- 2 受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託

者に提出します。

- **3** 受託者は、前2項の報告を行うことにより、受益者に対する信託法第37条第3項に定める報告は行わないこととします。
- 4 受益者は、受託者に対し、信託法第37条第2項に定める書類または電磁的記録の作成に欠くことのできない情報その他の信託に関する重要な情報および当該受益者以外の者の利益を害するおそれのない情報を除き、信託法第38条第1項に定める閲覧または謄写の請求をすることはできないものとします。

(信託事務の諸費用)

- 第38条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託者の立て替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。
- 2 信託財産の財務諸表の監査に係る監査費用および監査費用に係る消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期間末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

(信託報酬等の額および支弁の方法)

- 第39条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第36条に規定する計算期間を通じて毎日、信託 財産の純資産総額に年10,000分の17の率を乗じて得た額とし、委託者と受託者との間の配分は別 に定めます。
- 2 前項の信託報酬は、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期間末または信託終了のとき 信託財産中から支弁するものとします。
- 3 第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁 します。

(収益の分配方式)

- 第40条 信託財産から生ずる毎計算期間末における利益は、次の方法により処理します。
 - (1)配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下「配当等収益」といいます。)は、諸経費、監査費用および当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
 - (2) 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費、監査費用および当該監査費用に係る消費税等に相当する金額、信託報酬および当該信託報酬に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- 2 毎計算期間末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第41条 収益分配金は、当該計算期間の終了日後1か月以内の委託者の指定する日から毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため指定販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。

- 2 前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて、収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が指定販売会社に支払われます。この場合、指定販売会社は、受益者に対し、遅滞なく収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込みに応じるものとします。当該取得申込みにより増加した受益権は、第10条第3項の規定に従い、振替口座簿に記載または記録がされます。
- 3 償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)は、信託終了日後1か月以内の委託者の指定する日から信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため指定販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、振替法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- 4 一部解約金は、第44条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として4営業 日目から当該受益者に支払います。
- 5 前各項に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、指定販売会社の営業所等に おいて行うものとします。
- 6 収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として受益者ごとの信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとします。なお、本項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者ごとの信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。また、「受益者ごとの信託時の受益権の価額等」とは、原則として、受益者ごとの信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとします。

(収益分配金、償還金および一部解約金等の払い込みと支払いに関する受託者の免責)

- 第42条 受託者は、収益分配金については原則として毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金については前条第3項に規定する支払開始日までに、一部解約金については前条第4項に規定する支払開始日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。
- 2 受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解 約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(収益分配金および償還金の時効)

第43条 受益者が、収益分配金については、第41条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については、第41条第3項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(信託契約の一部解約)

第44条 受益者(指定販売会社を含みます。)は、自己に帰属する受益権につき、委託者に、最低単位を1口単位として指定販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

- 2 委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、振替法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- 3 前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求を受け付けた日の基準価額とします。
- 4 受益者が第1項の一部解約の実行の請求をするときは、指定販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。
- 5 委託者は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があると委託者が判断したときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付けを取り消すことができます。
- 6 前項により一部解約の実行の請求の受付けが中止された場合には、受益者は当該受付け中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、第3項の規定に準じて算出した価額とします。

(質権口記載または記録の受益権の取扱い)

第45条 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の 支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約 款によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

(信託契約の解約)

- **第46条** 委託者は、信託期間中において、受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃となるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出るものとします。
- 2 委託者は、前項の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。 この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、 当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれ らの事項を記載した書面決議の通知を発します。
- 3 前項の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- **4** 第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 5 第2項から前項までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係る全ての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第2項から前項までの手続きを行うことが困難な場合も同じとします。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

- **第47条** 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信 託契約を解約し信託を終了させます。
- **2** 委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第 51 条の規定 に従います。

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

- **第48条** 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し信託を終了させます。
- 2 前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会 社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第51条の書面決議で否決された場合を除き、当 該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

- **第49条** 委託者は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- **2** 委託者は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

- 第50条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申し立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第51条の規定に従い、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。
- **2** 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更等)

- **第51条** 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- 2 委託者は、前項の事項(前項の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前項の併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
- 3 前項の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなしま

す。

- **4** 第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- 5 書面決議の効力は、この信託の全ての受益者に対してその効力を生じます。
- 6 第2項から前項までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、 当該提案につき、この信託約款に係る全ての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表 示をしたときには適用しません。
- 7 前各項の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっても、 当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、 当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

(反対受益者の受益権買取請求の不適用)

第52条 この信託は、受益者が第44条の規定による一部解約請求を行ったときは、委託者が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、第46条に規定する信託契約の解約または前条に規定する重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

(他の受益者の氏名等の開示の請求の制限)

- **第53条** この信託の受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。
 - (1) 他の受益者の氏名または名称および住所
 - (2) 他の受益者が有する受益権の内容

(運用報告書に記載すべき事項の提供)

- 第54条 委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に 代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供します。
- 2 前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付します。

(公告)

第55条 委託者が受益者に対して行う公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第56条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 2022年2月18日

委託者 しんきんアセットマネジメント投信株式会社 受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

親投資信託 しんきん日経平均マザーファンド

運用の基本方針

投資信託約款第14条に基づき、委託者の定める方針は次のものとします。

1. 基本方針

わが国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経平均株価(以下「日経22 5」といいます。) に連動する投資成果の獲得を目指します。

2. 運用方法

(1) 投資対象

わが国の金融商品取引所上場株式のうち、日経225に採用された225銘柄を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

- ① 主としてわが国の金融商品取引所に上場している株式に投資し、日経225の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- ② 株式(株価指数先物取引等を含む。)の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ③ 運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。
- ④ 株式以外の資産への投資割合は、原則として、投資信託財産の総額の50%以下とします。
- ⑤ 市況動向あるいは資金動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

- ① 株式への投資割合には制限を設けません。
- ② 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ③ 投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)への投資割合は、投資信託財産の純資産 総額の5%以下とします。
- ④ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ⑤ 外貨建資産への投資は行いません。

20170919

